データ通信

FOMA端末から利用できるデータ通信について

FOMA端末とパソコンを接続してご利用できるデータ通信は、パケット通信・64Kデータ通信とデータ転送(OBEX)に分類されます。
FOMA端末はパケット通信用アダプタ機能を内蔵しています。

利用できる通信形態

データ通信におけるパソコンの動作環境は以下の通りです。

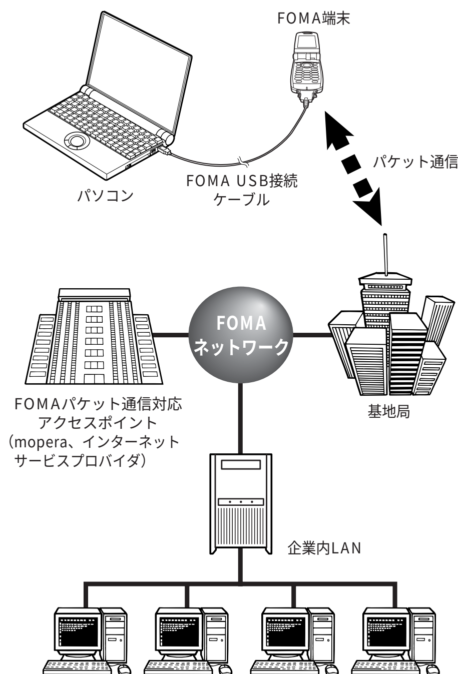
項　目	説　明
パソコン本体	PC-AT互換機でCD-ROMドライブが使用できる機器 FOMA USB接続ケーブル(別売)を使用する場合：USBポート(Universal Serial Bus Specification Rev1.1準拠) ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color16ビット以上を推奨。
OS	Microsoft® Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me、Windows® 2000 Professional、Windows® XP Professional/Home Edition(各日本語版)
必要メモリ	Microsoft® Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me：32Mバイト以上※ Windows® 2000 Professional：64Mバイト以上※ Windows® XP Professional/Home Edition：128Mバイト以上※ (各日本語版)
ハードディスクの空き容量	5Mバイト以上※

※ 必要メモリおよびハードディスクの空き容量はシステム環境によって異なることがあります。

・Windows® Meは、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating systemの略です。
・Windows® 98は、Microsoft® Windows® 98 operating systemの略です。
・Windows® 98SEは、Microsoft® Windows® 98 operating system Second Editionの略です。
・Windows® 2000 Professionalは、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating systemの略です。
・Windows® XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating system、またはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。

パケット通信

送受信したデータ量に応じて通信料金がかかる通信形態です。(受信最大384kbps、送信最大64kbps)ドコモのインターネット接続サービス「mopera」など、FOMAパケット通信に対応したアクセスポイントを利用します。
パケット通信はFOMA端末とFOMA USB接続ケーブル(別売)とパソコンとを接続し、各種設定を行うことで利用することができ、高速通信を必要とするアプリケーションの利用にも適しています。また、FOMAネットワークに接続された企業内LANにアクセスし、データの送受信をすることもできます。
P.443以降の説明にしたがって、設定と接続を行ってください。

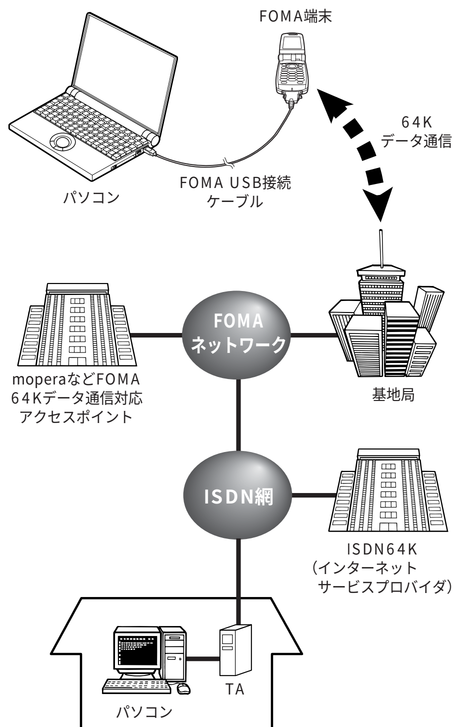


お知らせ

●パケット通信では送受信したデータ量に応じて課金されます。画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。
●USBケーブルは専用のFOMA USB接続ケーブルをお買い求めください。(パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。)
●FOMA端末をドコモのPDA「sigmarion Ⅱ」や「musea」に接続してデータ通信を行う場合、「sigmarion Ⅱ」「musea」をアップデートしてご利用ください。アップデートの方法など詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

64Kデータ通信

接続している時間に応じて、通信料金がかかる通信形態です。FOMA USB接続ケーブル（別売）を使って64kbpsの通信を行います。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」などのFOMA 64Kデータ通信対応アクセスポイント、またはISDNの同期64Kアクセスポイントをご利用ください。
P.443以降の説明にしたがって、設定と接続を行ってください。

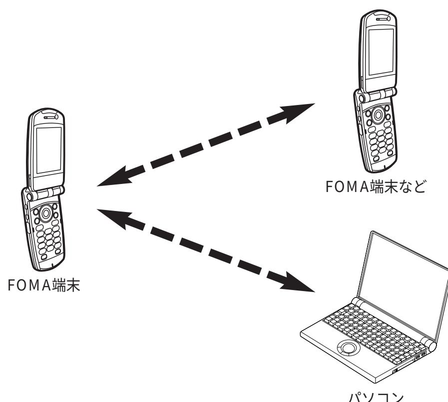


お知らせ

- 64Kデータ通信では、接続した時間量に応じて課金されます。長時間にわたる接続を行った場合、通信料金が高額になる恐れがありますのでご注意ください。
- FOMA端末からは、PIAFSなどのPHSサービス（32Kデータ通信および、64Kデータ通信）はご利用できません。
- USBケーブルは専用のFOMA USB接続ケーブルをお買い求めください。（パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。）
- FOMA端末をドコモのPDA「sigmarion II」や「musea」に接続してデータ通信を行う場合、「sigmarion II」「musea」をアップデートしてご利用ください。アップデートの方法など詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

データ転送（OBEX）

赤外線やFOMA USB接続ケーブル（別売）を使ってデータを送受信する通信形態です。赤外線通信では、FOMA端末またはパソコンなど赤外線通信機能を持つ機器とデータを送受信することができます。
FOMA端末とパソコン間でFOMA USB接続ケーブルを使ってデータ転送（OBEX）を行う際には、データリンクソフト（P.519参照）をインストールしてください。また、FOMA USB接続ケーブルを使う場合はP700i通信設定ファイルをインストールする必要があります。（P.444～447参照）



ご利用にあたっての留意点

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットをご利用の場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダに対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接インターネットサービスプロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」を利用すると、お申し込み手続き不要で、通信料のみでご利用いただけます。

接続先（インターネットサービスプロバイダなど）の設定について

パケット通信と64Kデータ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先、64Kデータ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。
- DoPaのアクセスポイントには接続できません。
- PIAFSなどのPHS64K/32Kデータ通信のアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証（IDとパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト（ダイヤルアップネットワーク）でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のインターネットサービスプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、そちらにお問い合わせください。

ブラウザ利用時のアクセス認証について

FirstPass（ユーザ証明書）でのアクセス認証が必要なサイトに接続する場合はFirstPass（ユーザ証明書）が必要な場合があります。その場合は、添付のCD-ROMからFirstPass PCソフトをインストールし、設定を行ってください。
詳しくはCD-ROM内の「FirstPassPCSoft」フォルダ内の「FirstPassManual」（PDF形式）をご覧ください。「FirstPassManual」（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Reader（バージョン6.0以上を推奨）が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、アドビ システムズ 株式会社のホームページから最新版をダウンロードできます。（別途通信料がかかります。）
詳しくはアドビ システムズ 株式会社のホームページを参照してください。

パケット通信および64Kデータ通信の条件

FOMA端末で通信を行うには、以下の条件が必要になります。
- **FOMA USB接続ケーブル（別売）に対応したパソコンであること**
- **FOMAパケット通信、64Kデータ通信に対応したPDAであること**
- **FOMAサービスエリア内であること**
- **パケット通信の場合、アクセスポイントがFOMAのパケット通信に対応していること**
- **64Kデータ通信の場合、接続先がFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64Kに対応していること**

ただし、上の条件が整っていても、基地局が混雑している、または電波状況が悪い場合は通信ができないことがあります。

■用語解説

●APN
Access Point Nameの略です。パケット通信において、接続先のインターネットサービスプロバイダや企業内LANを識別します。例えばmoperaの場合は「mopera.ne.jp」のような文字列で表します。

●cid
Context Identifierの略です。パケット通信をする際に、FOMA端末にあらかじめ登録するAPNの登録番号です。FOMA端末では、1から10までの10件を登録できます。

●Administrator権限
本書では、Windows® 2000 Professional、Windows® XPのシステムのすべてにアクセスできる権限のことを指しています。通常、Administratorsのグループに所属したユーザーはこの権限を持っています。一方、Administrator権限を持たないユーザーはシステムへのアクセスが限定されているため、通信設定ファイル（ドライバ）のインストールができません。

●DNS
Domain Name Systemの略です。「nttdocomo.co.jp」のような人間が理解しやすい名前を、コンピュータが管理しやすい数字で表したアドレスに変換するシステムのことです。

●OBEX
OBEX（Object Exchange）は、IrDA（Infrared Data Association）が規定したデータ通信についての国際規格（プロトコル）です。
OBEX規格に対応した機器やソフトウェアを使うことで、携帯電話、パソコン、デジタルカメラ、プリンタなどさまざまな情報機器間で、データの送受信ができます。

●IrDA
Infrared Data Associationの略です。赤外線を用いたデータ通信の規格の制定、促進を行う国際的な組織です。

●IrMC
Ir Mobile Communicationsの略です。IrDAが定めた規格で、電話帳、スケジュール、メール、フリーメモなどのデータ交換方法が定められています。また、機器間の通信には、OBEX規格を使用することが規定されています。

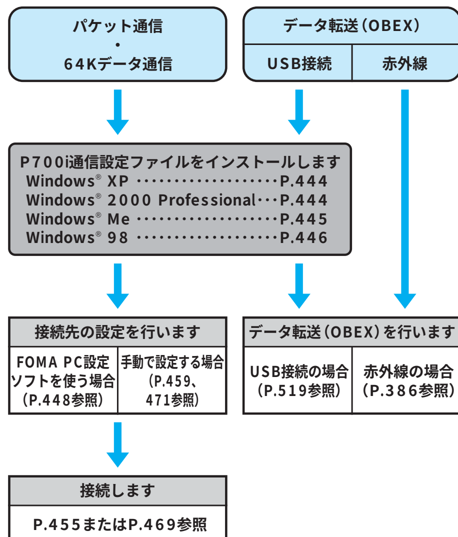
●QoS
Quality of Serviceの略でネットワークのサービス品質です。FOMA端末のQoS設定では、速度を限定しないで接続するかあるいは最高速度（上り64kbps、下り384kbps）でのみ接続するかを設定できます。（接続後の速度は可変します。）詳しくはP.478参照。

●W-TCP
FOMAネットワークでパケット通信を行うときに、TCP/IPの伝送能力を最大限に生かすためのTCPパラメータです。「Wireless」、「W-CDMA」、「Windows®」の環境下でFOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、TCPパラメータの最適化が必要です。

●W-CDMA
世界標準規格として認定された第三世代移動通信システム（IMT-2000）の1つです。
FOMA端末は、W-CDMA規格に準拠しています。

データ通信の準備の流れ

パケット通信・64Kデータ通信およびデータ転送（OBEX）を行う場合の準備について説明します。以下のような流れになります。



■添付の「FOMA P700i用CD-ROM」について

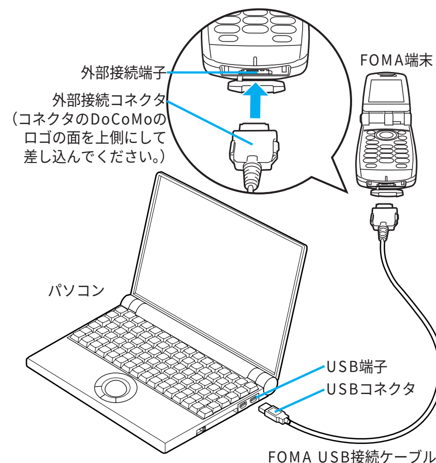
FOMA端末とパソコンをFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続してパケット通信を行うときには、添付の「FOMA P700i用CD-ROM」の「P700i通信設定ファイル」（ドライバ）をパソコンにインストールしてください。また、「FOMA PC設定ソフト」をインストールすることをおすすめします。
「P700i通信設定ファイル」（ドライバ）のインストール方法はP.444～447参照。
「FOMA PC設定ソフト」のインストール方法はP.448参照。

パソコンとFOMA端末を接続する

FOMA USB接続ケーブル（別売）の取り付け方法について説明します。

1 **FOMA端末の外部接続端子の向きを確認し、FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタをまっすぐ「カチッ」と音がするまで差し込む**

2 **FOMA USB接続ケーブルのUSBコネクタをパソコンのUSB端子に接続する**



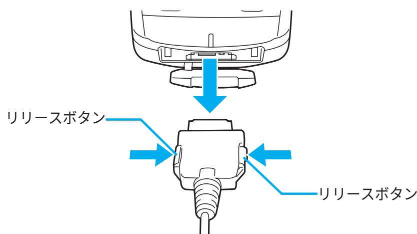
お知らせ

- FOMA USB接続ケーブルのコネクタは無理に差し込まないでください。各コネクタは正しい向き、正しい角度で差し込まないと接続できません。正しく差し込んだときは、強い力を入れなくてもスムーズに差し込めるようになっています。うまく差し込めないときは、無理に差し込まず、もう一度コネクタの形や向きを確認してください。
- USBケーブルは専用のFOMA USB接続ケーブルをお買い求めください。（パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。）
- FOMA端末に表示される「 」は、パケット通信または64Kデータ通信の通信設定ファイルのインストールを行い、パソコンとの接続が認識されたときに表示されます。通信設定ファイルのインストール前には、パソコンとの接続が認識されず、「 」も表示されません。

■取り外し方

1.FOMA USB接続ケーブルの外部接続コネクタのリリースボタンを押しながら、まっすぐ引き抜く。

2.パソコンのUSB端子からFOMA USB接続ケーブルを引き抜く。



お知らせ

- FOMA USB接続ケーブルは無理に取り外さないでください。故障の原因となります。
- FOMA USB接続ケーブルの取り付け・取り外しは連続して行わないでください。一度、取り付け・取り外しを行った場合は、間隔をおいてから再び行ってください。

通信設定ファイルをインストールする

Windows® XPにインストールする

Windows® XPでP700i通信設定ファイル(ドライバ)のインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限で行ってください。それ以外のアカウントでインストールを行うとエラーとなります。パソコンの管理者権限の設定については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

1 FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル(別売)を接続する(P.443参照)

2 Windows®を起動し「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする

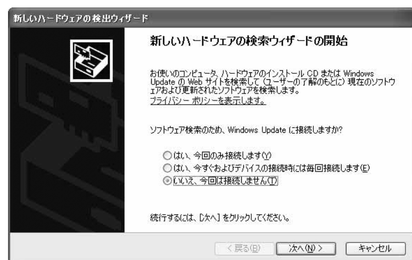
3 「ランチャ」画面を終了する

- この画面は「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットすると、自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては、表示されないことがあります。その場合は、手順4へ進みます。
- P700i通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「閉じる」をクリックします。

4 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

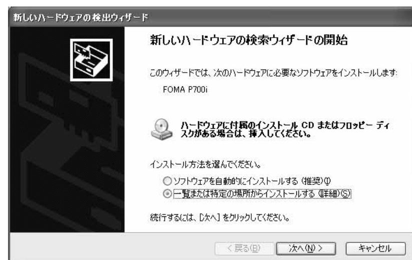
5 インストールを始める

「新しいハードウェアが見つかりました」というポップアップのメッセージが数秒間表示されたあと、下の画面が表示されます。
「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。
- お使いのパソコンにより、この画面は表示されない場合があります。



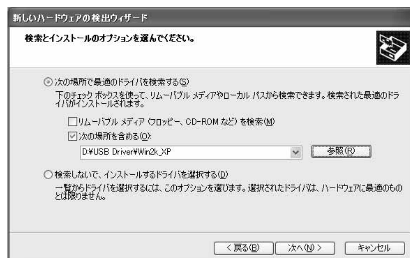
6 インストール方法を選ぶ

「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、「次へ」をクリックします。



7 ドライバを選ぶ

「次の場所で最適のドライバを検索する」を選んだあと、「リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索」のチェックを外し、「次の場所を含める」をチェックします。「参照」をクリックし、「<CD-ROMドライブ名>:\USB Driver\Win2k_XP」を指定し、「次へ」をクリックします。(CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。)
- ドライバはWindows® 2000 Professionalと共通です。



8 「完了」をクリックする

9 引き続き、手順5～8を参考にして、残りの3つのP700i通信設定ファイル(ドライバ)(P.447参照)をすべてインストールする

すべてのP700i通信設定ファイル(ドライバ)のインストールが完了すると、タスクバーのインジケータから「新しいハードウェアがインストールされ、使用準備ができました。」というポップアップメッセージが数秒間表示されます。

引き続き、P700i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。(P.446)

Windows® 2000 Professionalにインストールする

Windows® 2000 ProfessionalでP700i通信設定ファイル(ドライバ)のインストールを行う場合は、必ずAdministrator権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーがインストールを行うとエラーとなります。Administratorの設定については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

1 FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル(別売)を接続する(P.443参照)

2 Windows®を起動し「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする

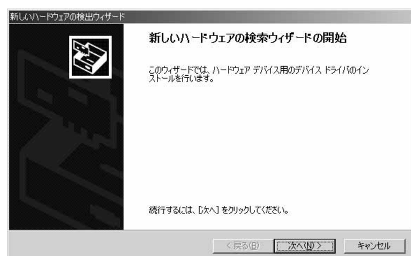
3 「ランチャ」画面を終了する

- この画面は「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットすると、自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては、表示されないことがあります。その場合は、手順4へ進みます。
- P700i通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「閉じる」をクリックします。

4 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

5 インストールを始める

「次へ」をクリックします。



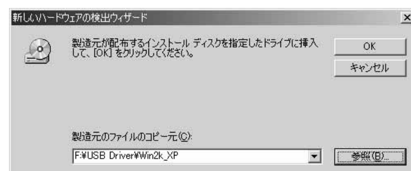
6 「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする

●お使いのパソコンによっては「USB DEVICE」と表示されることがあります。

7 「場所を指定」を選択し、「次へ」をクリックする

8 検索するフォルダを指定する

フォルダ名は、「＜CD-ROMドライブ名＞:\USB Driver\Win2k_XP」です。
検索するフォルダを指定したら、「OK」をクリックします。
（CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。）



9 ドライバ名（P.447参照）を確認して、「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA P700i」と表示されます。
●お使いのパソコンによっては「USB DEVICE」と表示されることがあります。

10 「完了」をクリックする

11 引き続き、手順5～10を参考にして、残りの3つのP700i通信設定ファイル（ドライバ）（P.447参照）をすべてインストールする

引き続き、P700i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。（P.446）

Windows® Meにインストールする

1 FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する（P.443参照）

2 Windows®を起動し「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする

3 「ランチャ」画面を終了する

●この画面は「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットすると、自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては、表示されないことがあります。その場合は、手順4へ進みます。
●P700i通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「閉じる」をクリックします。

4 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

5 インストールを始める

「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」を選択し、「次へ」をクリックします。



6 ドライバを選ぶ

「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「検索場所の指定」をチェックします。
「参照」をクリックし、「＜CD-ROMドライブ名＞:\USB Driver\Win98_Me」を指定し、「次へ」をクリックします。（CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。）
●ドライバはWindows® 98と共通です。



7 ドライバ名（P.447参照）を確認して、「次へ」をクリックする

ここでは「FOMA P700i」と表示されます。

8 「完了」をクリックする

9 引き続き、手順5～8を参考にして、残りの6つのP700i通信設定ファイル（ドライバ）（P.447参照）をすべてインストールする

引き続き、P700i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。（P.446）

Windows® 98にインストールする

1 **FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する（P.443参照）**

2 **Windows®を起動し「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする**

3 **「ランチャ」画面を終了する**

●この画面は「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットすると、自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては、表示されないことがあります。その場合は、手順4へ進みます。
●P700i通信設定ファイルのインストール中にこの画面が表示された場合も「閉じる」をクリックします。

4 **FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する**

5 **インストールを始める**

「次へ」をクリックします。



6 **「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする**

7 **検索するフォルダを指定する**

「検索場所の指定」を選択し、フォルダ名を指定します。
フォルダ名は、「＜CD-ROMドライブ名＞:\USB Driver\Win98_Me」です。
検索するフォルダを指定したら、「次へ」をクリックします。
（CD-ROMドライブ名はお使いのパソコンによって異なります。）



8 **「更新されたドライバ（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックする**

9 **ドライバ名（P.447参照）を確認して、「次へ」をクリックする**

ここでは「FOMA P700i」と表示されます。

10 **「完了」をクリックする**

11 **引き続き、手順5～10を参考にして、残りの6つのP700i通信設定ファイル（ドライバ）（P.447参照）をすべてインストールする**

引き続き、P700i通信設定ファイルが正しくインストールされていることを確認します。

インストールしたドライバを確認する

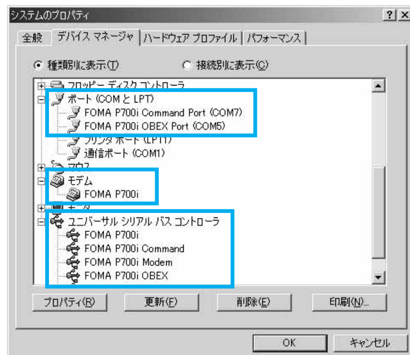
P700i通信設定ファイル（ドライバ）が正しくインストールされていることを確認します。

1 **＜Windows® 98、Windows® Me、Windows® 2000 Professionalの場合＞**
「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」を開く▶「システム」を開く
＜Windows® XPの場合＞
「スタート」▶「コントロールパネル」を開く▶「パフォーマンスとメンテナンス」▶「システム」アイコンをクリックする

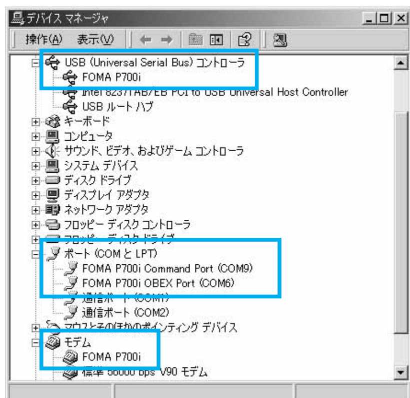
2 **＜Windows® 98、Windows® Meの場合＞**
「デバイスマネージャ」タブをクリックする
＜Windows® 2000 Professional、Windows® XPの場合＞
「ハードウェア」タブをクリック▶「デバイスマネージャ」をクリックする

3 **各デバイスをクリックして、インストールされたドライバ名を確認する**

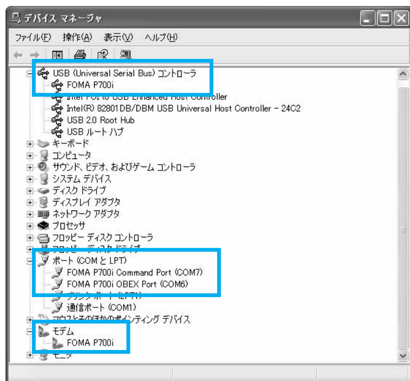
「ポート（COM／LPT）」、「モデム」、「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の下にすべてのドライバ名が表示されていることを確認します。



Windows® 98、Windows® Meの場合



Windows® 2000 Professionalの場合



Windows® XPの場合

＊COMポート番号は、お使いのパソコンによって異なります。

P700i通信設定ファイルをインストールすると、以下のドライバがインストールされます。

デバイス名	P700i通信設定ファイル（ドライバ）名
ポート（COM/LPT）	・FOMA P700i Command Port ・FOMA P700i OBEX Port
モデム	・FOMA P700i
ユニバーサル　シリアルバス コントローラ、 または USB（Universal Serial Bus） コントローラ	・FOMA P700i ・FOMA P700i OBEX※ ・FOMA P700i Modem※ ・FOMA P700i Command※

※ Windows® Me／Windows® 98のみ

FOMA PC設定ソフトを使って接続先の設定をするにはP.448参照。
FOMA PC設定ソフトを使わずに接続先の設定をするにはP.459参照。
FOMA USB接続ケーブル（別売）を使ってデータ転送を行うにはP.519参照。

お知らせ

●P700i通信設定ファイルをインストールするときは、必ずすべてのP700i通信設定ファイルを一度にインストールしてください。インストールの途中でパソコンからFOMA USB接続ケーブルを抜いてしまったり、「キャンセル」ボタンをクリックしてインストールを中止してしまった場合は、P700i通信設定ファイルが正常にインストールされない場合があります。このような場合には、アンインストールの手順にしたがってP700i通信設定ファイルを一度削除してから、再度インストールしなおしてください。

●間違って異なるOSのP700i通信設定ファイルをインストールすると、正しく動作しません。P700i通信設定ファイルをアンインストールし、再度インストールしなおしてください。

通信設定ファイルをアンインストールする

P700i通信設定ファイル（ドライバ）のアンインストールが必要になった場合（バージョンアップする場合など）は、次の手順で行ってください。ここではWindows® XPを例にしてアンインストールを説明します。

1 **FOMA端末とパソコンがFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続されている場合は、FOMA USB接続ケーブルを取り外す**

2 **Windows®を起動し「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする**

3 **「ランチャ」画面を終了する**

●この画面は「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットすると、自動的に表示されますが、お使いのパソコンの設定によっては表示されないことがあります。その場合は、手順4へ進みます。

4 **「マイコンピュータ」からCD-ROMアイコンを右クリックし、「開く」を選択する**

5 **CD-ROM内の「USB Driver」フォルダをダブルクリックする**

6 **「UnInst」フォルダをダブルクリックする**

7 **「p700i_un.exe」をダブルクリックする**

p700i_un.exe

●お使いのパソコンの設定によって「p700i_un」と表示されることがあります。

8 **「OK」をクリックする**

●アンインストールを中止する場合は、「キャンセル」をクリックします。

9 **「はい」をクリックしてWindows®を再起動する**

以上でアンインストールは終了です。

●「いいえ」をクリックした場合は、手動で再起動をしてください。

FOMA PC設定ソフトによる通信の設定

STEP1 ソフトのインストール

「FOMA PC設定ソフト」をインストールします。
インストール方法については本ページ参照。
「旧W-TCP設定ソフト」および「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合は、それらのソフトをアンインストールしてください。「旧W-TCP設定ソフト」および「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合、「FOMA PC設定ソフト」のインストールはできません。「FOMA PC設定ソフト」はデータ通信対応のすべてのFOMA端末で利用できます。

STEP2 設定前の準備

各種設定前の準備をします。
各種設定の前にFOMA端末にパソコンが接続され、かつ正しく認識されていることを確認してください。FOMA USB接続ケーブル（別売）の取り付け方法ついてはP.443参照。
FOMA端末がパソコンに正しく認識されていない場合、各種設定および通信を行うことができません。FOMA端末がパソコンに正しく認識されているか確認するにはP.446参照。
P700i通信設定ファイルのインストール方法については P.444～447参照。

STEP3 各種設定作業

ご利用の通信に対応した設定をします。
かんたん設定からパケット通信を設定するにはP.451参照。
「mopera」を接続先として利用する場合 ･･･････P.451
「mopera」以外のプロバイダを利用する場合 ･･･P.452
かんたん設定から64Kデータ通信を設定するにはP.453参照。
「mopera」を接続先として利用する場合 ･･･････P.453
「mopera」以外のプロバイダを利用する場合 ･･･P.454
W-TCP設定でパケット通信性能を最適化するにはP.457参照。
接続先（APN）を設定するにはP.458参照。

STEP4 接 続

インターネットに接続します。

FOMA PC設定ソフトについて

FOMA端末をパソコンに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で以下の設定ができます。FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信や64Kデータ通信を設定することもできます。（P.459、471参照）
「FOMA PC設定ソフト」はデータ通信対応のすべてのFOMA端末で利用できます。

■かんたん設定
ガイドにしたがい操作することで「FOMAデータ通信用ダイヤルアップの作成」を行い、同時に「W-TCPの設定」などを自動で行います。

■W-TCPの設定
「FOMAパケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。
通信性能を最大限に活用するには、W-TCP設定による通信設定の最適化が必要になります。

■接続先（APN）の設定
パケット通信に必要な接続先（APN）の設定を行います。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり通常の電話番号は使用しません。
あらかじめ接続先ごとに、FOMA端末にAPN（Access Point Name）と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号（cid）を接続先番号欄に指定して接続します。
お買い上げ時、「mopera」については、APNがcid※の1番に登録されていますが、その他のプロバイダや企業内LANに接続する場合は接続先（APN）の設定が必要になります。
※「Context Identifier」のことで、パケット通信の接続先（APN）をFOMA端末に登録する番号

FOMA PC設定ソフトをインストールする

FOMA端末をパソコンに接続してパケット通信や64Kデータ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。
FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作でダイヤルアップ、W-TCPや接続先（APN）の設定ができます。

FOMA PC設定ソフトインストール時の注意

動作環境をご確認ください

FOMA PC設定ソフトは以下の動作環境でご利用ください。

項目	説明
パソコン本体	PC-AT互換機 FOMA USB接続ケーブル（別売）を使用する場合：USBポート（Universal Serial Bus Specification Rev 1.1準拠）
OS	Microsoft® Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me、Windows® 2000 Professional、Windows® XP（各日本語版）
必要メモリ	Microsoft® Windows® 98、Windows® 98SE、Windows® Me、Windows® 2000 Professional：64Mバイト以上※ Windows® XP：128Mバイト以上※
ハードディスク容量	5Mバイト以上の空容量※

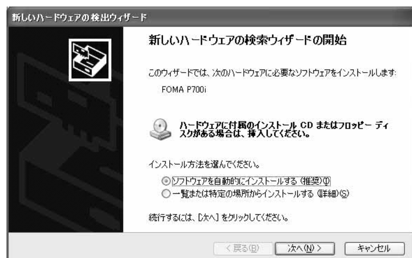
※ 必要メモリおよびハードディスクの空き容量はシステム環境によって異なることがあります。

FOMA端末がパソコンに正しく認識されているかご確認ください

「FOMA PC設定ソフト」をインストールする前に、FOMA端末がFOMA USB接続ケーブル（別売）により、ご利用のパソコンに接続され、かつパソコンのデバイス上にP700i通信設定ファイル（P.447参照）が正しく登録されている必要があります。（P.446参照）

■FOMA端末をはじめてパソコンに接続すると
下のようなウィザードが開始されます。
FOMAデータ通信を利用するには、ご利用のパソコン側に、FOMA端末が「通信デバイス」として登録されている必要があります。

P700i通信設定ファイルのインストールについてはP.444～447参照。



■パソコンの管理者権限について
Windows® 2000 Professional、Windows® XPで「FOMA PC設定ソフト」のインストール・アンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザーで行ってください。それ以外のユーザーが行うとエラーになります。
パソコンの管理者権限の設定については、各パソコンメーカ、マイクロソフト社にお問い合わせください。

お知らせ
●FOMA端末がCOM20より大きい番号で認識されている場合は、APN設定の際、APN情報の取得・書き込みができません。

FOMA PC設定ソフトをインストールする

ここではWindows® 2000 Professionalにインストールするときの画面を掲載しています。お使いのパソコンにより画面の表示が多少異なります。

1 添付の「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする

2 FOMA PC設定ソフトをインストールするには「FOMA PC設定ソフト」をクリックする

何らかの原因によりCD-ROMが自動再生されない場合は、マイコンピュータなどでCD-ROMを参照して、「FOMA_PCSET」フォルダ内にある「SETUP.EXE」をダブルクリックしてください。



3 「次へ」をクリックする

セットアップを始める前に、現在稼働中の他のプログラムがないことをご確認ください。ご使用中のプログラムがあった場合は、「キャンセル」をクリックして、ご使用中のプログラムを保存終了させたあとインストールを再開してください。
●「旧W-TCP設定ソフト」、「旧APN設定ソフト」および「FOMA PC設定ソフト」がインストールされているという画面が出た場合はP.450参照。

4 内容をご確認のうえ、契約内容にご同意いただける場合は、「はい」をクリックする

●「いいえ」をクリックすると、インストールは中止されます。

次ページにつづく

5 コンポーネントを選択する

セットアップ後、タスクトレイに「W-TCP設定」を常駐させるかどうか選択できます。「W-TCP設定」がタスクトレイにあれば、「W-TCP通信」の設定・解除が簡単に操作できます。特に問題がなければ、「タスクトレイに常駐する」にチェックを付けたまま、「次へ」をクリックしてインストールを続けてください。

●「タスクトレイに常駐する」のチェックを外して設定した場合でもFOMA PC設定ソフトの「メニュー」→「W-TCP設定をタスクトレイに常駐させる」を選択することにより設定変更可能です。



デスクトップの右下（通常）のタスクトレイに表示されます。



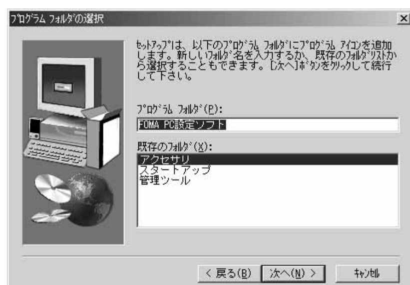
6 インストール先を確認して、「次へ」をクリックする

変更する場合は、「参照」をクリックして、任意のインストール先を指定して「次へ」をクリックしてください。
（ハードディスクスペースの問題などで、異なったドライブにインストールすることもできますが、通常はそのままお進みください。）



7 プログラムフォルダのフォルダ名を確認して、「次へ」をクリックする

変更する場合は、新規フォルダ名を入力して、「次へ」をクリックしてください。



8 「完了」をクリックする

セットアップが完了すると、「FOMA PC設定ソフト」の操作画面が起動します。

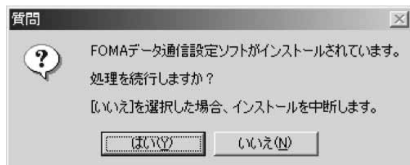
■FOMA PC設定ソフト インストール時の画面表示

「旧W-TCP設定ソフト」がインストールされている場合



旧バージョンのW-TCP環境設定ソフトがインストールされている場合に表示されます。
「アプリケーションの追加と削除」から旧バージョンのW-TCP環境設定ソフトをアンインストールしてください。

「旧APN設定ソフト」がインストールされている場合



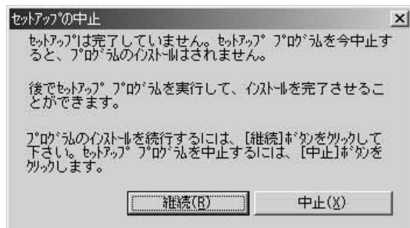
旧バージョンの「FOMAデータ通信設定ソフト」がインストールされている場合に表示されます。
「はい」を選択すると、旧バージョンのAPN設定ソフトのアンインストールが自動的に行われたあと、「FOMA PC設定ソフト」がインストールされます。

「FOMA PC設定ソフト」が既にインストールされている場合



「FOMA PC設定ソフト」が既にインストールされている場合に表示されます。
「はい」をクリックしてください。

インストール途中で「キャンセル」を押した場合



セットアップの途中で「キャンセル」や「いいえ」をクリックして、先へ進まない命令を出した場合、この画面が表示されます。インストールを継続する場合は「継続」を、意図的に中止する場合は「中止」をクリックしてください。

通信の設定を行う

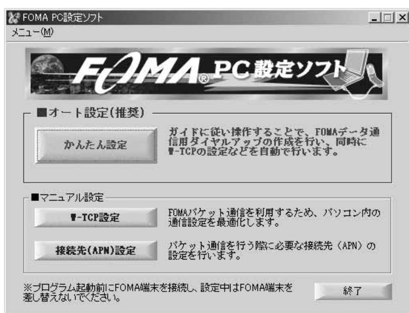
パケット通信や64Kデータ通信に関するさまざまな設定をします。
簡単に設定できる「オート設定」と一定レベルのパソコンの知識が必要な「マニュアル設定」があります。
設定の前にFOMA端末がパソコンに接続されているかご確認ください。

1 「スタート」▶「プログラム」▶「FOMA PC設定ソフト」を開く

<Windows® XPの場合>
「スタート」→「すべてのプログラム」→「FOMA PC設定ソフト」を開く

この設定ソフトでは、お客様の選択した「接続方法」および「接続プロバイダ」の情報にしたがい、表示される設問に対する選択・入力を進めていくと、簡単にFOMA用ダイヤルアップを作成できます。

- 「かんたん設定」からパケット通信を設定する場合は本ページ参照。
- 「かんたん設定」から64Kデータ通信を設定する場合はP.453参照。
- 「W-TCP設定」を設定する場合はP.457参照。
- 「接続先（APN）設定」をする場合はP.458参照。



かんたん設定からパケット通信を選択する

「mopera」を接続先として利用する場合

パケット通信は、通信時間や距離に関係なく送受信されたデータ量に応じて料金が計算される通信方式です。（受信最大384kbps、送信最大64kbps）
moperaは契約申し込み不要で、通信料のみでインターネット接続をご利用いただけます。

1 「かんたん設定」をクリックする



2 「パケット通信」を選択して、「次へ」をクリックする

「パケット通信」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

3 「mopera接続」を選択して、「次へ」をクリックする

「mopera接続」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。
- 「mopera」以外のプロバイダをご利用の場合はP.452参照。

4 「OK」をクリックする

- パソコンに接続されたFOMA端末から接続先（APN）設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 接続名を入力して、「次へ」をクリックする

現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
- 半角の「¥」「／」「：」「＊」「？」「！」「<」「>」「｜」「”」は入力できません。



6 「次へ」をクリックする

接続先が「mopera」の場合は、ユーザー名・パスワード入力が省略できます。空欄のまま「次へ」をクリックしてください。
- Windows® XPおよびWindows® 2000 Professionalの場合は「すべてのユーザー」または「自分のみ」を選択してください。
  どちらのユーザーを選択してよいかわからない場合は、「すべてのユーザー」を設定してください。（初期設定）
  Windows® MeおよびWindows® 98の場合は、使用可能ユーザーの設定を行う必要はありません。

7 「最適化を行う」を選択して、「次へ」をクリックする

「最適化を行う」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックします。
- すでに最適化されている場合、最適化を行うための確認画面は表示されません。

8 設定情報の確認をして、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りのないことを確認して、「完了」をクリックしてください。
- 設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックします。
- 「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックが付いていれば、デスクトップにショートカットが作成されます。

次ページにつづく

9 「OK」をクリックする



設定が完了しました。
デスクトップに自動作成されたダイヤルアップのショートカットアイコンを開くと、接続を開始します。接続確認後、インターネットブラウザやメールブラウザを起動し、通信することができます。(P.455参照)

●「最適化」を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。

> ■パケット通信について
> 送受信したデータ量に応じて課金されるため、時間を気にせずデータ通信ができます。受信最大384kbps、送信最大64kbps(一部機種を除く)の高速パケット通信が可能です。通信環境や混雑状態の影響により通信速度が変化します。また、画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

「mopera」以外のプロバイダを接続先として利用する場合

パケット通信は、通信時間や距離に関係なく送受信されたデータ量に応じて料金が計算される通信方式です。(受信最大384kbps、送信最大64kbps)
ここでは「mopera」以外のプロバイダを利用します。「mopera」以外のプロバイダを利用する場合は、別途契約申し込みなどが必要となる場合があります。

1 「かんたん設定」をクリックする



2 「パケット通信」を選択して、「次へ」をクリックする

「パケット通信」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

3 「その他」を選択して、「次へ」をクリックする

「その他」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

4 「OK」をクリックする

●パソコンに接続されたFOMA端末から接続先(APN)設定を取得します。しばらくお待ちください。

5 接続名を入力する

現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。

●半角の「¥」「／」「：」「＊」「？」「！」「<」「>」「｜」「”」は入力できません。
●「接続先(APN)の選択」欄には標準で「mopera.ne.jp」が設定されていますが、「接続先(APN)設定」画面に進んでください。



6 「接続先(APN)設定」をクリックする

番号(cid)1には基本情報として「mopera.ne.jp」が設定されています。「追加」をクリックして、「接続先(APN)の追加」画面で、FOMAパケット通信に対応した接続先名(APN)を正しく入力して、「OK」をクリックします。

●プロバイダの接続先(APN)については、各プロバイダにお問い合わせください。
●「パケット通信設定」の画面に戻ります。新たに設定した接続先(APN)を選択して、よろしければ「OK」をクリックしてください。



7 「詳細情報の設定」をクリックする

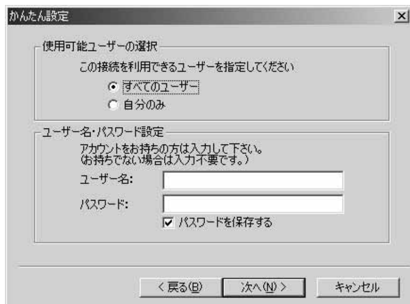
「IPアドレス」・「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LANなどのダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報をもとに、各種アドレスを設定して「OK」をクリックします。

8 「次へ」をクリックする

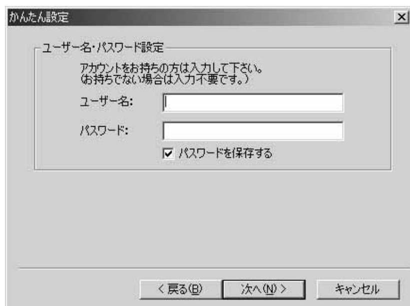
9 ユーザー名・パスワードを設定して、「次へ」をクリックする

ユーザー名・パスワードの設定は、サービスプロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字などに注意し、正確に入力してください。

●Windows® XPおよびWindows® 2000 Professionalの場合は「すべてのユーザー」または「自分のみ」を選択してください。
どちらのユーザーを選択してよいかわからない場合は、「すべてのユーザー」を設定してください。（初期設定）
Windows® MeおよびWindows® 98の場合は、使用可能ユーザーの設定を行う必要はありません。



Windows® XP・Windows® 2000 Professionalの場合



Windows® Me・Windows® 98の場合

10 「最適化を行う」を選択して、「次へ」をクリックする

「最適化を行う」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックします。

●すでに最適化されている場合、最適化を行うための確認画面は表示されません。

11 設定情報の確認をして、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りのないことを確認して、「完了」をクリックしてください。

●設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックします。

●「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックが付いていれば、デスクトップにショートカットが作成されます。

12 「OK」をクリックする



設定が完了しました。
デスクトップに自動作成されたダイヤルアップのショートカットアイコンを開くと、接続を開始します。接続確認後、インターネットブラウザやメールブラウザを起動し、通信することができます。（P.455参照）

●「最適化」を有効にするためには、パソコンを再起動する必要があります。

■パケット通信について
送受信したデータ量に応じて課金されるため、時間を気にせずデータ通信ができます。受信最大384kbps、送信最大64kbps（一部機種を除く）の高速パケット通信が可能です。通信環境や混雑状態の影響により通信速度が変化します。また、画像を多く含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

かんたん設定から64Kデータ通信を選択する

「mopera」を接続先として利用する場合

64Kデータ通信は接続した時間量に応じて料金が計算される通信方式です。（通信速度最大64kbps）moperaは契約申し込み不要で、通信料金のみでインターネット接続をご利用いただけます。

1 「かんたん設定」をクリックする



2 「64Kデータ通信」を選択して、「次へ」をクリックする

「64Kデータ通信」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

3 「mopera接続」を選択して、「次へ」をクリックする

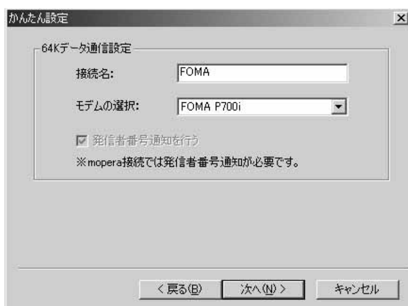
「mopera接続」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

●「mopera」以外のプロバイダをご利用の場合はP.454参照。

4 接続名を入力して、「次へ」をクリックする

現在作成している接続の名前を自由に設定できます。わかりやすい名前を「接続名」欄にご入力ください。
また、「モデムの選択」欄で、FOMA P700iが表示されていることをご確認ください。

●半角の「¥」「／」「：」「＊」「？」「！」「<」「>」「｜」「”」は入力できません。



5 「次へ」をクリックする

接続先が「mopera」の場合は、ユーザー名・パスワード入力が省略できます。空欄のまま「次へ」をクリックしてください。

●Windows® XPおよびWindows® 2000 Professionalの場合は「すべてのユーザー」または「自分のみ」を選択してください。
Windows® MeおよびWindows® 98の場合は、使用可能ユーザーの設定を行う必要はありません。

6 設定情報の確認をして、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りのないことを確認して、「完了」をクリックしてください。

●設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックします。

●「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックが付いていれば、デスクトップにショートカットが作成されます。

7 「OK」をクリックする



設定が完了しました。
デスクトップに自動作成されたダイヤルアップのショートカットアイコンを開くと、接続を開始します。接続確認後、インターネットブラウザやメールブラウザを起動し、通信することができます。(P.455参照)

> **■64Kデータ通信について**
> 接続した時間に応じて課金されます。64kbpsの安定した通信速度によって快適なインターネットアクセスが実現できます。長時間にわたる接続を行った場合、通信料金が高額になる恐れがありますのでご注意ください。

「mopera」以外のプロバイダを接続先として利用する場合

64Kデータ通信は接続した時間量に応じて料金が計算される通信方式です。(通信速度最大64kbps)
「mopera」以外のプロバイダを利用する場合は、別途契約申し込みなどが必要となる場合があります。

1 「かんたん設定」をクリックする



2 「64Kデータ通信」を選択して、「次へ」をクリックする

「64Kデータ通信」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

3 「その他」を選択して、「次へ」をクリックする

「その他」にチェックが付いていることを確認して、「次へ」をクリックしてください。

4 ダイヤルアップ情報を入力する

「mopera」以外のISDN同期プロバイダに接続する場合は、ダイヤルアップ作成時に、
①接続名の入力(任意)
②モデムの選択(FOMA P700i)
③プロバイダ接続の電話番号
をそれぞれに登録します。
プロバイダ情報を元に正しく入力してください。

●「接続名」欄に半角の「¥」「/」「:」「*」「?」「!」「<」「>」「|」「"」は入力できません。



5 「詳細情報の設定」をクリックする

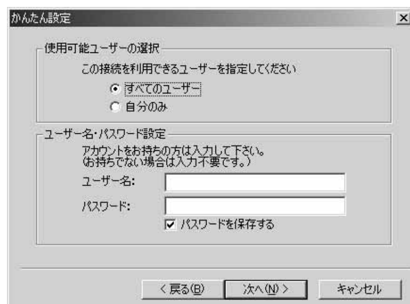
「IPアドレス」・「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LANなどのダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報をもとに、各種アドレスを設定して「OK」をクリックします。

6 「次へ」をクリックする

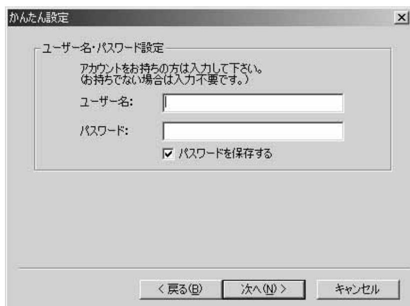
7 ユーザー名・パスワードを設定して、「次へ」をクリックする

ユーザー名・パスワードの設定は、サービスプロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字などに注意し、正確に入力してください。

●Windows® XPおよびWindows® 2000 Professionalの場合は「すべてのユーザー」または「自分のみ」を選択してください。
Windows® MeおよびWindows® 98の場合は、使用可能ユーザーの設定を行う必要はありません。



Windows® XP・Windows® 2000 Professionalの場合



Windows® Me・Windows® 98の場合

8 設定情報の確認をして、「完了」をクリックする

設定された内容が一覧で表示されます。設定内容に誤りのないことを確認して、「完了」をクリックしてください。

- 設定内容を変更する場合は、「戻る」をクリックします。
- 「デスクトップにダイヤルアップのショートカットを作成する」にチェックが付いていれば、デスクトップにショートカットが作成されます。

9 「OK」をクリックする



設定が完了しました。
デスクトップに自動作成されたダイヤルアップのショートカットアイコンを開くと、接続を開始します。接続確認後、インターネットブラウザやメールブラウザを起動し、通信することができます。(本ページ参照)

■64Kデータ通信について
接続した時間に応じて課金されます。64kbpsの安定した通信速度によって快適なインターネットアクセスが実現できます。長時間にわたる接続を行った場合、通信料金が高額になる恐れがありますのでご注意ください。

設定した通信を実行する

ここではWindows® 2000 Professionalを例にしてダイヤルアップ接続を説明します。P.443の手順にしたがって、FOMA端末とパソコンを接続します。

1 デスクトップの接続アイコンをダブルクリックする



通信設定で作成されたFOMA接続のショートカットアイコンを開くと、通信接続が開始され、接続のプロパティが表示されます。

- ショートカットアイコンがない場合は以下の操作でアイコンを表示します。
  <Windows® XP>
  「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」

  <Windows® 2000 Professional>
  「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」

  <Windows® 98、Windows® Me>
  「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」

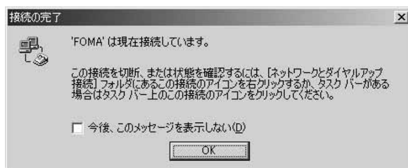
2 「ユーザー名」、「パスワード」を入力し、「ダイヤル」をクリックする

- 「mopera」選択の場合は「ユーザー名」、「パスワード」とも空欄のまま、「ダイヤル」をクリックしてください。
- 「パスワードを保存する」にチェックを付けると、次回から入力の必要がなくなります。



3 接続されたことを確認して、「OK」をクリックする

- 以前に「接続」のメッセージを表示しない設定にしてあると、この画面は表示されません。
- ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用することができます。



お知らせ

- ダイヤルアップ設定を行ったFOMA端末でダイヤルアップ接続を行ってください。異なるFOMA端末を接続する場合は、再度、通信設定ファイルのインストールが必要になることがあります。
- FOMA端末はRemote Wakeupには対応していません。
- 通信中はFOMA端末の消費電力が大きくなります。
- パケット通信中には、通信状態によってFOMA端末にアイコンが表示されます。



「 」(通信中、データ送信中)
「 」(通信中、データ受信中)
「 」(通信中、データ送受信なし)
「 」(発信中、または切断中)
「 」(着信中、または切断中)

次ページにつづく

切断のしかた

1 タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする



ダイヤルアップアイコン

2 「切断」をクリックする

お知らせ

- ブラウザソフトを終了しただけでは、通信回線は切断されない場合があります。確実に切断するためには、この手順にしたがって回線を切断してください。
- パソコンに表示される通信速度は実際の通信速度とは異なる場合があります。

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

アンインストールを実行する前に

「FOMA PC設定ソフト」をアンインストールする前に、FOMA用に変更された内容を元に戻す必要があります。

1 「W-TCP設定ソフト」をタスクトレイに常駐させないようにする

ウィンドウ右下タスクトレイの「W-TCP設定ソフト」を右クリックして、「常駐させない」を選択します。

右クリック

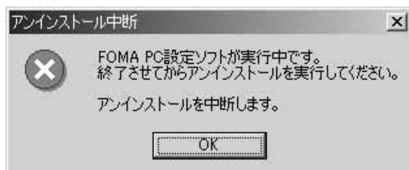


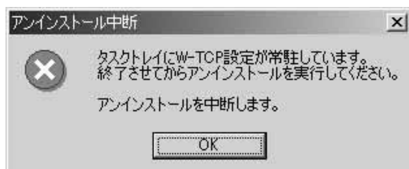
左クリック



2 起動中のプログラムを終了する

「FOMA PC設定ソフト」や「W-TCP設定ソフト」が起動中にアンインストールを実行しようとすると、下のような画面が表示されます。アンインストールプログラムを中断し、それぞれのプログラムを終了させてください。





アンインストールをする

ここではWindows® 2000 Professionalでアンインストールするときの画面を掲載しています。お使いのパソコンにより画面の表示が異なります。

1 「スタート」▶（「設定」※1▶）「コントロールパネル」▶「アプリケーションの追加と削除」※2を開く

※1 Windows® 98・Windows® Me・Windows® 2000 Professionalの場合
※2 Windows® XPの場合は、「プログラムの追加と削除」と表示されます。

2 「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択して、「変更／削除」をクリックする

- Windows® 98・Windows® Meでは「追加と削除」と表示されます。
- Windows® XPでは「変更と削除」と表示されます。



3 削除するプログラム名を確認して、「はい」をクリックする

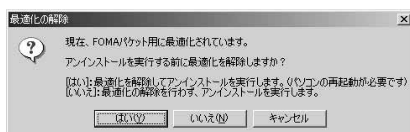
アンインストールが実行されプログラムが削除されます。

4 「OK」をクリックする

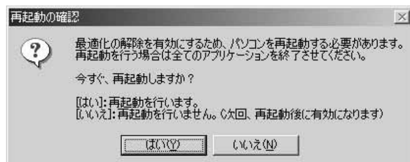
「FOMA PC設定ソフト」のアンインストールが終了します。

■「W-TCP最適化」を解除するには

W-TCPが最適化されている場合は、下の画面が出ます。最適化を解除する場合は「はい」をクリックしてください。



設定を有効にするために、パソコンを再起動してください。



W-TCP設定

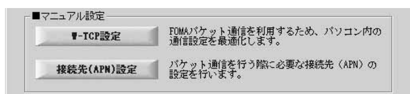
W-TCPソフトの役割

「W-TCP設定ソフト」はFOMAネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IPの伝送能力を最適化するための「TCPパラメータ設定」ツールです。FOMA端末の通信性能を最大限に活用する前に、このソフトウェアによる通信設定の最適化が必要です。
「かんたん設定」で「最適化を行う」にチェックを入れてダイヤルアップを作成した場合、ここでは最適化を行う必要はありません。

最適化の設定と削除

Windows® 98／Windows® Me／Windows® 2000 Professionalの場合

**1 <「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合>
プログラム起動して、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする**



**<タスクトレイから操作する場合>
タスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックして、プログラムを起動する**



**2 <最適化されていない場合>
「最適化を行う」をクリックする**

**<最適化されている場合>
「最適化を解除する」をクリックする**

FOMA端末以外での通信などの理由で設定を解除する場合に、最適化を解除してください。

3 「OK」をクリックする

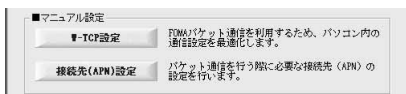
4 「はい」をクリックする

設定を有効にするために、パソコンを再起動します。

Windows® XPの場合

Windows® XPの場合はダイヤルアップごとに最適化設定が可能です。

**1 <「FOMA PC設定ソフト」から操作する場合>
プログラム起動して、「マニュアル設定」の「W-TCP設定」をクリックする**



**<タスクトレイから操作する場合>
タスクトレイの「W-TCPアイコン」をクリックして、プログラムを起動する**



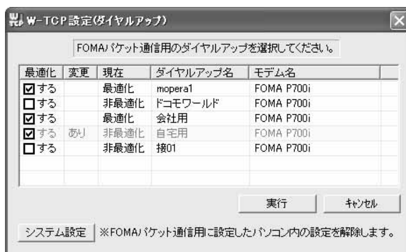
**2 <システム設定が最適化されていない場合>
「最適化を行う」をクリックする**

最適化するダイヤルアップを選択し、「実行」をクリックすると、システム設定、ダイヤルアップ設定それぞれの最適化が実行されます。

<システム設定が最適化されている場合>
内容の変更などがある場合は設定を行ってください。

**<最適化を解除する場合>
「システム設定」▶「最適化を解除する」をクリックする**

FOMA端末以外での通信などの理由で設定を解除する場合に、最適化を解除してください。



3 「OK」をクリックする

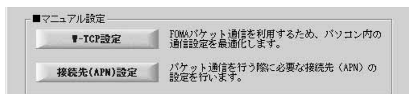
4 「はい」をクリックする

設定を有効にするために、パソコンを再起動します。

接続先（APN）の設定

パケット通信を行う場合の接続先（APN）の設定をします。
FOMAパケット通信の接続先には、64Kデータ通信と異なり通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先毎に、FOMA端末にAPN（Access Point Name）と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。
お買い上げ時、cid1には、moperaの接続先（APN）「mopera.ne.jp」が登録されていますので、cid を設定するときは、2～10の番号に設定してください。
cid（Context Identifier）とはパケット通信の接続先（APN）をFOMA端末に登録する番号のことです。

1 プログラム起動して、「マニュアル設定」の「接続先（APN）設定」をクリックする



2 「OK」をクリックする

「OK」をクリックすると、接続されたFOMA端末に自動アクセスし、登録されている「接続先（APN）設定」を読み込みます。また、設定情報は手順3でメニューの「ファイル」→「FOMA端末から設定を取得」からも読み込むことができます。

3 接続先（APN）の設定をする

●FOMA端末が接続されていない場合、この画面は表示されません。



接続先（APN）の追加・編集・削除

・接続先（APN）の追加をする場合は「追加」をクリックしてください。
・登録済みの接続先（APN）を編集（修正）する場合は「編集」をクリックします。
・登録済みの接続先（APN）を削除したい場合は、対象の接続先（APN）を選択して「削除」をクリックしてください。
　＊「cid1」に登録されている接続先（APN）は削除できません。

ファイルへの保存

メニューの「ファイル」→「上書き保存」／「名前を付けて保存」からの操作で、FOMA端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存したりできます。

ファイルからの読み込み

メニューの「ファイル」→「開く」からの操作で、パソコンに保存されている接続先（APN）設定を読み込むことができます。

FOMA端末からの接続先（APN）情報の読み込み

「FOMA端末から設定を取得」をクリックすると、接続先（APN）設定をFOMA端末から読み込むことができます。

FOMA端末への接続先（APN）情報の書き込み

「FOMA端末へ設定を書き込む」をクリックすると、表示されている接続先（APN）設定をFOMA端末に書き込むことができます。

ダイヤルアップ作成機能

接続先（APN）設定画面上で追加・編集された接続先（APN）を選択し、「ダイヤルアップ作成」をクリックすると、パケット通信ダイヤルアップが作成できます。FOMA端末設定書き込み確認画面が表示されますので、「はい」をクリックします。書き込み終了後、「パケット通信ダイヤルアップ作成画面」が表示されます。
任意の接続先名を入力し、「アカウント・パスワードの設定」をクリックしてください。（moperaの場合は不要）
ユーザー名とパスワードを入力し（Windows® 2000 Professional・Windows® XPの場合は使用可能ユーザーの選択をして）「OK」をクリックしてください。
ご利用のサービスプロバイダより、IPおよびDNS情報の設定が指示されている場合、「詳細情報の設定」をクリックし、必要な情報を登録後、「OK」をクリックしてください。
設定入力が完了したら、「OK」をクリックしてください。ダイヤルアップが作成されます。
「mopera」を利用する場合はP.451参照。
「mopera」以外のプロバイダを利用する場合はP.452参照。

お知らせ

●接続先（APN）は、FOMA端末に登録される情報であるため、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度FOMA端末に接続先（APN）を登録する必要があります。
●パソコン側の接続先（APN）を継続利用する場合は、同一cid番号に同一接続先（APN）をFOMA端末に登録してください。

ダイヤルアップネットワークの設定をする

パケット通信の設定をする

「FOMA PC設定ソフト」を使わずに、パケット通信の接続を設定する方法について説明します。
パケット通信では、パソコンからさまざまな設定を行う場合にATコマンドを使用します。設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここでは、Windows®標準添付の「ハイパーターミナル」を使って説明します。
ドコモのインターネット接続サービス「mopera」をご利用になる場合は、接続先（APN）の設定（P.460参照）は不要です。
発信者番号通知／非通知の設定（P.462参照）は必要に応じて行います。（「mopera」をご利用の場合は、「通知」に設定する必要があります。）

<ATコマンドによるパケット通信設定の流れ>

COMポートを確認する（本ページ参照）
↓
ATコマンド入力をサポートする通信ソフトを起動する（P.460「接続先（APN）の設定をする」手順3参照）
↓
接続先（APN）の設定をする（P.461手順7参照）
↓
発信者番号通知／非通知を設定する（P.462手順2参照）
↓
その他の設定をする（P.472参照）
↓
通信ソフトを終了する（P.462手順9参照）

■ATコマンドについて
- ATコマンドとは、モデム制御用のコマンドです。FOMA端末はATコマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のATコマンドをサポートしています。
- ATコマンドを入力することによって、パケット通信やFOMA端末の詳細な設定、設定内容の確認（表示）をすることができます。
- 入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1↵」と入力してください。

COMポート番号を確認する

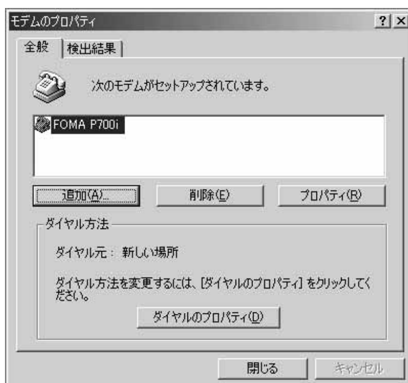
手動で通信設定を行う場合、P700i通信設定ファイルのインストール後に組み込まれた「FOMA P700i」（モデム）に割り当てられたCOMポート番号を指定する必要があります。確認方法はご利用になるパソコンのOSによって異なります。
- ドコモのインターネット接続サービス「mopera」をご利用になる場合、接続先（APN）の設定が不要なため、モデムの確認をする必要はありません。

Windows® 98、Windows® Meの場合

1 「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」を開く

2 「コントロールパネル」の「モデム」を開く
- コントロールパネルに「モデム」が表示されない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックします。

3 「FOMA P700i」がセットアップされていることを確認して、「検出結果」タブをクリックする



4 「FOMA P700i」が設定されているCOMポートを確認して、「OK」をクリックする
- 確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（P.460参照）で使用します。
- プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。



Windows® 2000 Professionalの場合

1 「スタート」▶「設定」▶「コントロールパネル」を開く

2 「コントロールパネル」の「電話とモデムのオプション」を開く

3 「所在地情報」の画面が表示された場合は、「市外局番」を入力して、「OK」をクリックする

4 「モデム」タブを開き、「FOMA P700i」の「接続先」欄のCOMポートを確認して、「OK」をクリックする

●確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（本ページ参照）で使用します。
●プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。



Windows® XPの場合

1 「スタート」▶「コントロールパネル」を開く

2 「コントロールパネル」の「プリンタとその他のハードウェア」から「電話とモデムのオプション」を開く

3 「所在地情報」の画面が表示された場合は、「市外局番／エリアコード」を入力して、「OK」をクリックする

4 「モデム」タブを開き、「FOMA P700i」の「接続先」欄のCOMポートを確認して、「OK」をクリックする

●確認したCOMポート番号は、接続先（APN）の設定（本ページ参照）で使用します。
●プロパティ画面に表示される内容およびCOMポートの番号は、お使いのパソコンによって異なります。



接続先（APN）の設定をする

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。接続先（APN）は10個まで登録でき、1〜10の「cid」（P.462参照）という番号で管理されます。
cid1には、すでにmoperaが設定されていますので、cidを設定するときは、2〜10の番号に設定してください。
moperaの場合は、接続先（APN）の設定は不要です。
ここでは接続先（APN）が「XXX.abc」で、FOMA USB接続ケーブル（別売）を利用した場合を例として説明します。実際のAPNはインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。
ここでの設定はダイヤルアップネットワークの設定（P.463参照）での接続先番号となります。

Windows® XPの例

1 FOMA端末とFOMA USB接続ケーブル（別売）を接続する

2 FOMA端末の電源を入れて、FOMA端末と接続したFOMA USB接続ケーブルをパソコンに接続する

3 ハイパーターミナルを起動する

「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」を開きます。
●Windows® 2000 Professional、Windows® Me、Windows® 98では、パソコンで「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」を開きます。
●Windows® 98では、「ハイパーターミナル」を開いたあと「Hypertrm.exe」をダブルクリックします。

データ通信

4 「名前」の欄に任意の名前を入力して、「OK」をクリックする

ここでは例として「Sample」と入力します。



5 接続方法を選択する

＜「FOMA P700i」のCOMポートを選択できる場合＞

「接続方法」で「FOMA P700i」がインストールされたCOMポートを選択して「OK」をクリックします。
このあと手順6へ進んでください。

●ここでは例として「COM6」を選択します。実際に「接続方法」で選択する「FOMA P700i」のCOMポート番号についてはP.459参照。



＜「FOMA P700i」のCOMポートを選択できない場合＞

「キャンセル」をクリックして「接続の設定」画面を閉じ、次の操作を行ってください。

(1)「ファイル」メニュー→「プロパティ」を選択します。
(2)「Sampleのプロパティ」画面の「接続の設定」タブの「接続方法」の欄で「FOMA P700i」を選択します。
(3)「国/地域番号と市外局番を使う」のチェックを外します。
(4)「OK」をクリックします。

このあと手順7へ進んでください。



6 COMポートのプロパティが表示されるので、「OK」をクリックする

●手順5でCOMポートを選択した場合に表示されます。

7 接続先（APN）を設定する

AT+CGDCONT=cid,"PPP","APN"の形式で入力します。
cid：2～10までのうち任意の番号を入力します。
＊すでにcidが設定してある場合は、設定が上書きされますので注意してください。
"APN"：APNを" "で囲んで入力します。
"PPP"についてはそのまま"PPP"と入力します。

（例：cidの2番にXXX.abcというAPNを設定する場合）
　AT+CGDCONT=2,"PPP","XXX.abc"
入力後↵を押して、OKと表示されればAPNの設定は完了です。

●現在のAPN設定を確認したい場合は、「AT+CGDCONT？↵」と入力します。
APN設定が一覧で表示されます。（P.462参照）



8 「OK」と表示されることを確認する



次ページにつづく

9 「ファイル」メニュー▶「ハイパーターミナルの終了」を選択して、ハイパーターミナルを終了する

●「現在、接続されています。切断してもよろしいですか？」と表示されたときは、「はい」を選択してください。
●「セッションXXXを保存しますか？」と表示されますが、特に保存する必要はありません。

お知らせ

●お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。
●接続先（APN）は、FOMA端末に登録される情報であるため、異なるFOMA端末を接続する場合は、再度FOMA端末に接続先（APN）を登録する必要があります。
●パソコン側の接続先（APN）を継続利用する場合は、同一cid番号に同一接続先（APN）をFOMA端末に登録してください。
●入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1 ↵」と入力してください。

■cid（登録番号）について

FOMA端末にはcid1からcid10までの登録番号があり、cid1には、接続先（APN）として「mopera.ne.jp」が登録されています。「mopera」以外に接続する場合は、cid2からcid10までのいずれかにプロバイダまたはネットワーク管理者より指示される接続先（APN）を設定する必要があります。

お買い上げ時のcid登録

登録番号（cid）	接続先（APN）
1	mopera.ne.jp
2～10	未設定

■cidに登録した接続先（APN）に接続するときの「電話番号」について

「＊99＊＊＊<cid番号>＃」

（例）cid2に登録した接続先（APN）に接続する場合
＊99＊＊＊2＃

■接続先（APN）設定のリセット／確認について

接続先（APN）設定のリセット／確認もATコマンドを使って行います。

接続先（APN）設定のリセット

リセットを行った場合、cid=1の接続先（APN）設定のみ「mopera.ne.jp」（初期値）に戻り、cid=2～10の設定は未登録となります。
（入力方法）
AT＋CGDCONT= ↵（すべてのcidをリセットする場合）
AT＋CGDCONT=〈cid〉 ↵（特定のcidのみリセットする場合）

接続先（APN）設定の確認

現在の設定内容を表示させます。
（入力方法）
AT＋CGDCONT? ↵

■ダイヤルアップネットワークでの通知／非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定（P.463参照）でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。
＊DGPIRコマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で186（通知）／184（非通知）の設定を行った場合、以下のようになります。

ダイヤルアップネットワークの設定（cid＝1の場合）	＊DGPIRコマンドによる通知／非通知設定	発信者番号の通知／非通知
＊99＊＊＊1#	設定なし	通知
	非通知	非通知
	通知	通知
184＊99＊＊＊1#	設定なし	非通知（ダイヤルアップネットワークの184が優先される）
	非通知	
	通知	
186＊99＊＊＊1#	設定なし	通知（ダイヤルアップネットワークの186が優先される）
	非通知	
	通知	

●「mopera」に接続する場合は、発信者番号の通知が必要です。

発信者番号の通知／非通知を設定する

パケット通信を行うときに、通知／非通知設定（接続先にお客様の発信者番号を通知するかどうかの設定）を行うことができます。発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。発信者番号の通知／非通知設定は、ダイヤルアップ接続を行う前にATコマンドで設定することができます。発信者番号の通知／非通知は＊DGPIRコマンドで設定します。

1 「ハイパーターミナル」などの通信ソフトを起動する

●「ハイパーターミナル」での操作方法についてはP.460参照。

2 ＊DGPIRコマンド（P.474参照）で発信者番号の通知／非通知を設定する

●発信／着信応答のときに自動的に184（非通知）を付ける場合は、
AT＊DGPIR=1 ↵と入力します。
●発信／着信応答のときに自動的に186（通知）を付ける場合は、
AT＊DGPIR=2 ↵と入力します。



3 「OK」と表示されることを確認する



お知らせ

- ●お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。
- ●ドコモのインターネット接続サービス「mopera」をご利用になる場合は、発信者番号を「通知」に設定する必要があります。
- ●入力したATコマンドが表示されない場合は「ATE1 ↵」と入力してください。

Windows® XPでダイヤルアップネットワークの設定をする

1 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「新しい接続ウィザード」を開く

2 「新しい接続ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックする



3 「インターネットに接続する」を選択して、「次へ」をクリックする

4 「接続を手動でセットアップする」を選択して、「次へ」をクリックする

5 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択して、「次へ」をクリックする

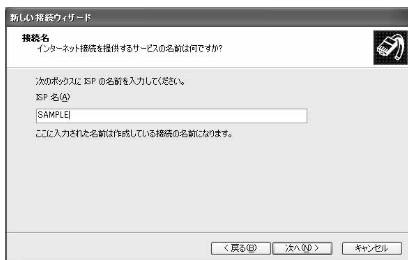
6 「デバイスの選択」画面が表示された場合は、「FOMA P700i」にチェックを付けて「次へ」をクリックする

●「デバイスの選択」画面は、複数のモデムが存在するときのみ表示されます。



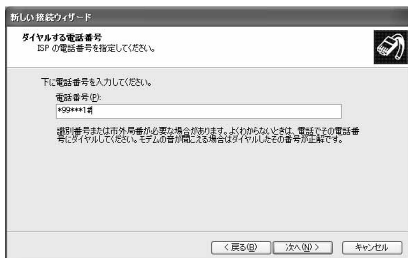
7 「ISP 名」の欄に任意の名前を入力して、「次へ」をクリックする

●ここでは例として「SAMPLE」と入力します。



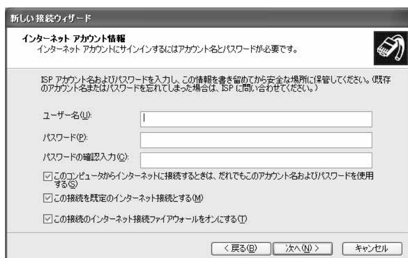
8 「電話番号」の欄に「＊99＊＊＊1#」と入力して、「次へ」をクリックする

●電話番号はmoperaへ接続する場合の例です。実際にはお客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。



9 「ユーザー名」、「パスワード」、「パスワードの確認入力」の欄にインターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力して、「次へ」をクリックする

●moperaへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。



10 「完了」をクリックする

11 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワーク接続」を開く

データ通信

次ページにつづく

12 ダイヤルアップのアイコンを選択して、「ネットワークタスク」▶「この接続の設定を変更する」を選択する

ここでは手順7で入力した名前のアイコンをクリックします。



13 「全般」タブで設定を確認する

パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続方法」の欄で「モデムーFOMA P700i」にチェックが付いているのを確認します。チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。また、複数のモデムにチェックが付いている場合は、 ボタンをクリックして「モデムーFOMA P700i」の優先順位を一番上にするか、「モデムーFOMA P700i」以外のモデムのチェックを外してください。「ダイヤル情報を使う」にチェックされている場合にはチェックを外します。

- 「FOMA P700i」に割り当てられるCOMポートは、お使いのパソコンによって異なります。
- 電話番号はmoperaへ接続する場合の例です。実際には、お客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。

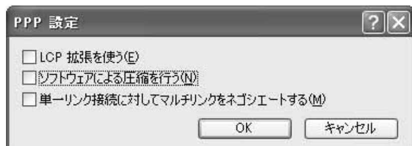


14 「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」の欄は、「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択します。
「この接続は次の項目を使用します」の欄は、「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択します。
「QoSパケットスケジューラ」は設定変更ができませんので、そのままにしておいてください。
続いて「設定」をクリックします。



15 すべてのチェックを外して、「OK」をクリックする



16 手順14の画面に戻り、「OK」をクリックする

お知らせ

- お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。
- ここでの接続に関する設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。
- 電話番号に「＊99＊＊＊1＃」を指定するとmoperaに接続するように設定されています。mopera以外の接続先についてはP.462参照。

Windows® 2000 Professionalでダイヤルアップネットワークの設定をする

1 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開く

2 「ネットワークとダイヤルアップ接続」の中の「新しい接続の作成」をダブルクリックする


新しい接続の作成

3 「所在地情報」の画面が表示された場合は、「市外局番」を入力して、「OK」をクリックする

●「所在地情報」の画面は、手順2で「新しい接続の作成」を初めて起動したときのみ表示されます。
●2回目以降は、この画面は表示されず、「ネットワークの接続ウィザード」の画面が表示されるので、手順5に進んでください。

4 「電話とモデムのオプション」が表示されたら、「OK」をクリックする

5 「ネットワークの接続ウィザード」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックする



6 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択して、「次へ」をクリックする

7 「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します」を選択して、「次へ」をクリックする

8 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択して、「次へ」をクリックする

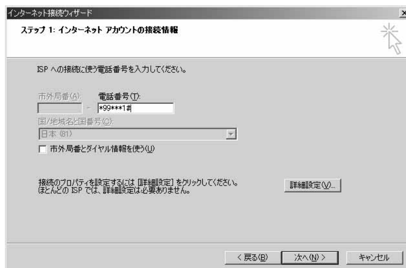
9 「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」の欄が「FOMA P700i」になっていることを確認して、「次へ」をクリックする

●選択されていない場合には、「FOMA P700i」を選択します。
●お使いになるパソコンの動作環境によっては、下の画面は表示されません。その場合は、手順10へ進みます。



10 「電話番号」の欄に「＊99＊＊＊1#」と入力する

●「市外局番」の欄には何も入力しません。
●「市外局番とダイヤル情報を使う」のチェックを外します。
●電話番号はmoperaに接続する場合の例です。実際にはお客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。

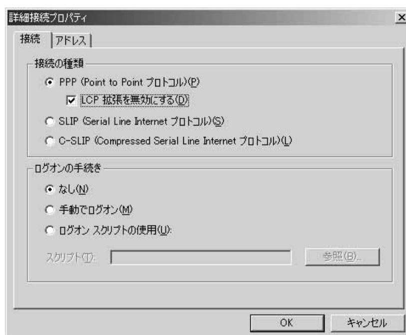


11 「詳細設定」をクリックする

12 「接続」タブの中の設定を行う

「接続の種類」、「ログオンの手続き」について、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。
設定を確認したら、「アドレス」タブをクリックします。

●「接続」タブでの設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。



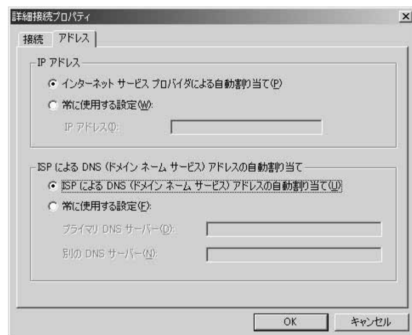
データ通信

次ページにつづく

13 IPアドレスおよびDNS（ドメインネームサービス）アドレスの設定を行う

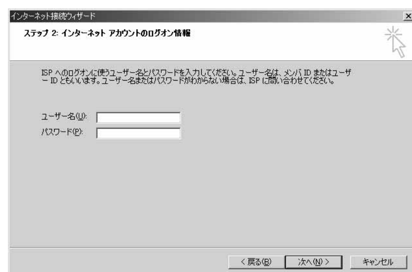
「IPアドレス」、「ISPによるDNS（ドメインネームサービス）アドレスの自動割り当て」について、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。
すべての入力が終わったら、「OK」をクリックします。手順10の画面に戻るので、「次へ」をクリックします。

●**IPアドレスおよびDNSアドレスの設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。**



14 「ユーザー名」、「パスワード」の欄にインターネットサービスプロバイダまたは管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力して、「次へ」をクリックする

●moperaへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。この場合、「ユーザー名を空白のままにしておきますか？」という画面と「パスワードを空白のままにしておきますか？」という画面が表示されます。それぞれの画面で「はい」をクリックして手順15へ進みます。



15 「接続名」の欄に任意の名前を入力して、「次へ」をクリックする

●ここでは例として「SAMPLE」と入力します。

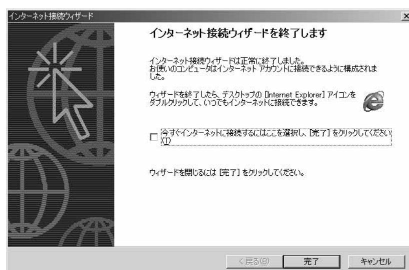


16 「いいえ」を選択して、「次へ」をクリックする

●インターネットメールの設定をする場合は、「はい」を選択します。
●**設定する場合の詳細については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。**

17 続いて「TCP/IP」の設定をする

●下の画面が表示された場合は、「今すぐインターネットを接続するには、ここを選び［完了］をクリックしてください」のチェックを外して、「完了」をクリックします。



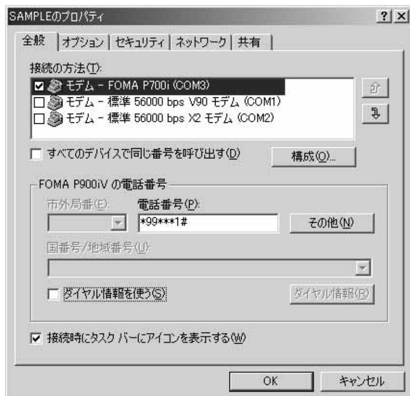
18 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開く

19 手順15で入力した接続先名のアイコンを選択して、「ファイル」メニュー▶「プロパティ」を選択する



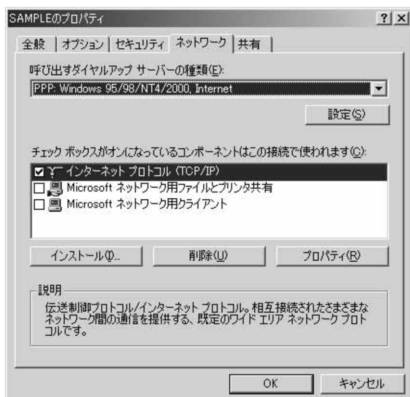
20 「全般」タブで設定を確認する

●パソコンに2台以上のモデムが接続されている場合は、「接続の方法」の欄で「モデム−FOMA P700i」にチェックが付いているのを確認します。チェックが付いていない場合には、チェックを付けます。
●「ダイヤル情報を使う」にチェックが付いていないことを確認します。チェックされている場合にはチェックを外します。
●「FOMA P700i」に割り当てられるCOMポートは、お使いのパソコンによって異なります。
●電話番号はmoperaへ接続する場合の例です。実際には、お客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。



21 「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」の欄は、「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択します。
コンポーネントは「インターネットプロトコル(TCP/IP)」のみをチェックします。
続いて「設定」をクリックします。



22 すべてのチェックを外して「OK」をクリックする



23 手順21の画面に戻り、「OK」をクリックする

お知らせ

●お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。
●ここでの接続に関する設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。
●電話番号に「*99***1#」を指定するとmoperaに接続するように設定されています。mopera以外の接続先についてはP.462参照。

Windows® 98、Windows® Meでダイヤルアップネットワークの設定をする

ここでは、Windows® Meの画面で説明しています。

1 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ダイヤルアップネットワーク」を開く

2 「ダイヤルアップネットワークへようこそ」の画面が表示されたら、「次へ」をクリックする

●この画面はダイヤルアップネットワークを初めて起動したときのみ表示されます。「次へ」をクリックして、手順4に進んでください。
●2回目以降は、この画面は表示されません。その場合は、手順3へ進みます。



3 「ダイヤルアップネットワーク」の中の「新しい接続」をダブルクリックする



4 「接続名」の欄に接続先名(任意の名前)を入力して、「次へ」をクリックする

ここでは例として「SAMPLE」と入力します。
●「モデムの選択」の欄が「FOMA P700i」になっていない場合は、「FOMA P700i」を選択します。



データ通信

次ページにつづく

5 「電話番号」の欄に「＊99＊＊＊1＃」と入力して、「次へ」をクリックする

●「市外局番」の欄には何も入力しません。
●「国／地域番号」は「日本（81）」を選択します。
●電話番号はmoperaに接続する場合の例です。実際にはお客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。

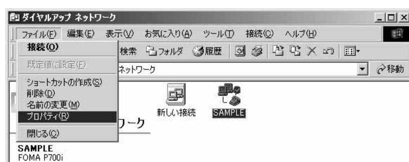


6 接続先名（任意の名前）を確認して、「完了」をクリックする

続いて「TCP/IP」の設定をします。

7 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ダイヤルアップネットワーク」を開く

8 手順4で入力した接続先名のアイコンを選択して、「ファイル」メニュー▶「プロパティ」を選択する



9 「全般」タブで「電話番号」の入力および「接続方法」の確認を行う

●「市外局番」の欄には何も入力しません。
●「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックを外します。
●「接続方法」の欄が「FOMA P700i」になっていない場合は、「FOMA P700i」を選択します。
●電話番号はmoperaへ接続する場合の例です。実際には、お客様がお使いになる接続先番号を入力します。mopera以外の接続先番号についてはP.462参照。



10 <Windows® 98の場合>
「サーバーの種類」タブをクリックして、各種設定を行う

「ダイヤルアップサーバーの種類」、「詳細オプション」、「使用できるネットワークプロトコル」について、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。
●「サーバーの種類」タブは、お使いのパソコンによって表示位置が異なります。
●**「サーバーの種類」タブでの設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。**
手順12へ進みます。



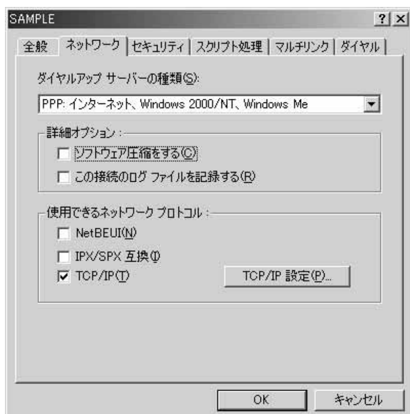
<Windows® Meの場合>

「ネットワーク」タブをクリックして、各種設定を行う

「ダイヤルアップサーバーの種類」、「詳細オプション」、「使用できるネットワークプロトコル」について、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたとおり設定します。

●「ネットワーク」タブは、お使いのパソコンによって表示位置が異なります。

●「ネットワーク」タブでの設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。

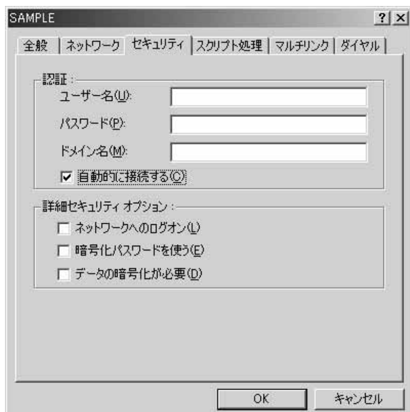


11 「セキュリティ」タブをクリックして、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者から指定されたユーザー名とパスワードを入力する

●「自動的に接続する」にチェックをしておくと、接続時にユーザー名、パスワードなどを確認する画面が出なくなり、すぐに接続するようになります。

●パスワードを変更した場合は、この画面でパスワードを入力しなおします。

●moperaへ接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。



12 「OK」をクリックする

お知らせ

●お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。

●ここでの接続に関する設定内容については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者へお問い合わせください。

●電話番号に「＊99＊＊＊1＃」を指定するとmoperaに接続するように設定されています。mopera以外の接続先についてはP.462参照。

ダイヤルアップ接続する

ここではWindows® MeとWindows® XPを例にしてダイヤルアップ接続を説明します。P.443の手順にしたがって、FOMA端末とパソコンを接続します。

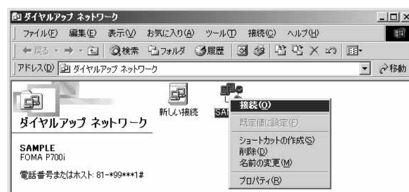
●パケット通信による接続を行うときには「W-TCP設定」(P.457参照)で通信性能を最適化することをおすすめします。最適化することでFOMAネットワークでの高速通信を最大限に生かして利用できます。最適化を行うには「FOMA PC設定ソフト」(P.448参照)をインストールしてください。

Windows® Meの例

1 「スタート」▶「プログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ダイヤルアップネットワーク」を開く

2 接続先を開く

「ダイヤルアップネットワークの設定をする」で設定した接続先名(P.467参照)のアイコンを選択して「接続」メニュー→「接続」を選択するか、接続先のアイコンをダブルクリックします。



3 内容を確認して「接続」をクリックする

●「自動的に接続する」をチェックした場合(本ページ参照)、確認画面は表示されません。

●moperaへ接続する場合、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。

4 接続中の状態を示す画面が表示されます

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログオン処理が行われます。



5 接続完了です

●ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用することができます。

●接続完了の画面が表示されない場合は、接続先の設定を再度確認してください。(設定により表示されない場合があります。)

Windows® XPの例

1 「スタート」▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」▶「通信」▶「ネットワーク接続」を開く

2 接続先を開く

「ダイヤルアップネットワークの設定をする」で設定したISP名（P.463参照）のダイヤルアップの接続先アイコンを選択して「ネットワークタスク」→「この接続を開始する」を選択するか、接続先のアイコンをダブルクリックします。



3 内容を確認して「ダイヤル」をクリックする

●moperaへ接続する場合は、ユーザー名とパスワードの入力は不要です。

4 接続中の状態を示す画面が表示されます

この間にユーザー名、パスワードの確認などのログオン処理が行われます。
接続が完了すると、タスクバーのインジケータから「(接続先名)に接続しました」というポップアップのメッセージが表示されます。



5 接続完了です

接続が完了すると、タスクバーのインジケータから、下のようなメッセージが数秒間表示されます。
●ブラウザソフトを起動してホームページを閲覧したり、電子メールなどを利用することができます。
●メッセージが表示されない場合は、接続先の設定を再度確認してください。



お知らせ

●ダイヤルアップ設定を行ったFOMA端末でダイヤルアップ接続を行ってください。異なるFOMA端末を接続する場合は、再度、通信設定ファイルのインストールが必要になることがあります。
●FOMA端末はRemote Wakeupには対応していません。
●通信中はFOMA端末の消費電力が大きくなります。
●パケット通信中には、通信状態によってFOMA端末にアイコンが表示されます。



「 」(通信中、データ送信中)
「 」(通信中、データ受信中)
「 」(通信中、データ送受信なし)
「 」(発信中、または切断中)
「 」(着信中、または切断中)

切断のしかた

ここではWindows® Meを例に説明します。

1 タスクトレイのダイヤルアップアイコンをダブルクリックする



ダイヤルアップアイコン

2 「切断」をクリックする

お知らせ

●お使いのパソコンにより画面の表示が異なる場合があります。
●ブラウザソフトを終了しただけでは、通信回線は切断されない場合があります。確実に切断するためには、この手順にしたがって回線を切断してください。
●パソコンに表示される通信速度は実際の通信速度とは異なる場合があります。

ネットワークに接続できないときは

ネットワークに接続できない（ダイヤルアップ接続ができない）場合は、まず以下の項目について確認してください。

こんなときは	こうします
「FOMA P700i」がパソコン上で認識できない	・お使いのパソコンが動作環境（P.440参照）を満たしているかを確認してください。 ・P700i通信設定ファイルがインストールされているか確認してください。 ・FOMA端末がパソコンに接続され、電源が入っているか確認してください。 ・FOMA USB接続ケーブル（別売）がしっかりと接続されているかを確認してください。
相手先に接続できない	・ID（ユーザー名）やパスワードの設定が正しいかどうか確認してください。 ・「mopera」のように発信者番号の通知が必要な場合、電話番号に「184」を付加していないかどうかを確認してください。 ・モデムのプロパティで「フロー制御を使う」にチェックが付いていることを確認してください。 ・上記の確認を行っても相手先に接続できない場合は、インターネットサービスプロバイダまたはネットワーク管理者に設定方法などについてご相談ください。

64Kデータ通信の設定

「FOMA PC設定ソフト」を使わずに、64Kデータ通信の接続を設定する方法について説明します。

ダイヤルアップ接続とTCP/IPの設定

64Kデータ通信のダイヤルアップ接続とTCP/IPの設定はパケット通信での設定（P.459参照）と同じです。
以下の点に注意して操作してください。

●64Kデータ通信では接続先（APN）の設定をする必要はありません。ダイヤルアップ接続の接続先にはインターネットサービスプロバイダまたはネットワークの管理者から指定されたアクセスポイントの電話番号を入力してください。（moperaに接続する場合、電話番号欄には「*9601」と入力してください。）
●「発信者番号通知／非通知の設定」、「その他の設定」は必要に応じて設定してください。
（moperaに接続する場合、発信者番号の通知が必要です。）
●設定内容の詳細については、インターネットサービスプロバイダまたはネットワークの管理者にお問い合わせください。

接続・切断のしかた

パケット通信での操作と同じです。P.455、469の手順にしたがって操作してください。

FirstPass PCソフトを利用する

FirstPass PCソフトは、FirstPass対応のFOMA端末より取得したユーザ証明書をパソコンのWebブラウザからFirstPass対応サイトにアクセスできるようにしたものです。

FirstPass PCソフトインストール時の注意

動作環境をご確認ください

FirstPass PCソフトは以下の動作環境でご利用ください。

項　目	必　要　環　境
パソコン本体	PC-AT互換機
OS	Microsoft® Windows® 98SE、 Windows® Me、Windows® 2000 Professional、Windows® XP（各日本語版） （Windows® 98には対応していません。）
必要メモリ	Microsoft® Windows® 98SE、 Windows® Me、Windows® 2000 Professional　：32Mバイト以上※ Windows® XP　：128Mバイト以上※
ハードディスク容量	10Mバイト以上の空容量※
ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer 5.5以上 Windows® XPの場合は Microsoft® Internet Explorer 6.0以上

※必要メモリおよびハードディスクの空き容量はシステム環境によって異なることがあります。

インストールする前に

FirstPass PCソフトをインストールする前にCD-ROM内の「FirstPassPCSoft」フォルダ内の「FirstPassManual」（PDF形式）をご覧ください。「FirstPassManual」（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Reader（バージョン6.0以上を推奨）が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、アドビ システムズ 株式会社のホームページから最新版をダウンロードできます。（別途通信料がかかります。）詳しくはアドビ システムズ 株式会社のホームページを参照してください。

FirstPass PCソフトをインストールする

ここではWindows® 2000 Professionalにインストールするときの画面を掲載しています。お使いのパソコンにより画面の表示が多少異なります。

1 添付の「FOMA P700i用CD-ROM」をパソコンにセットする

2 FirstPass PCソフトをインストールするには「FirstPass PCソフト」をクリックする

引き続き、CD-ROM内の「FirstPassPCSoft」フォルダ内の「FirstPassManual」（PDF形式）の手順にしたがってインストールしてください。



ATコマンドについて

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の機能の設定や変更を行うためのコマンド（命令）です。

＊ATコマンド一覧では、以下の略を使用しています。
[AT]：FOMA P700i Command Portで使用できるコマンドです。
[M]　：FOMA P700i（モデム）で使用できるコマンドです。
[&F]：AT&Fコマンドで設定が初期化されるコマンドです。
[&W]：AT&Wコマンドで設定が保存されるコマンドです。ATZコマンドで設定値を呼び戻すことができます。

ATコマンドの入力形式

ATコマンドの入力は通信ソフトのターミナルモード画面で行います。必ず半角英数字で入力してください。

●入力例

ATD＊99＊＊＊1＃↵
- ATD：コマンド
- ＊99＊＊＊1＃：パラメータ
- ↵：リターンマーク

●ATコマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、必ず1行で入力します。
通信ソフトのターミナルモード画面では、最初の文字から↵を押した直前の文字までを「1行」とし、160文字（AT含む）まで入力できます。

お知らせ

●ターミナルモードとは、パソコンを1台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードのことです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている回線に送られます。

オンラインデータモードと オンラインコマンドモードを切り替える

FOMA端末をオンラインデータモードとオンラインコマンドモードに切り替えるには、以下の2つの方法があります。

- **「+++」コマンドまたは「S2」レジスタに設定したコードを入力します。**
- **「AT&D1」に設定されているときに、RS-232C※のER信号をOFFにします。**

●オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替える場合は、「ATO↵」と入力します。

※USBインタフェースにより、RS-232Cの信号線がエミュレートされていますので、通信アプリによるRS-232Cの信号線制御が有効になります。

■設定の保存について
AT+CGDCONTコマンドによる接続先（APN）設定、AT+CGEQMIN/AT+CGEQREQコマンドによるQoS設定、AT＊DGAPL/AT＊DGARL/AT＊DGANSMコマンドによる着信許可・拒否設定およびAT＊DGPIRコマンドによるパケット通信の番号通知・非通知の設定を除き、ATコマンドによる設定は、FOMA端末の電源OFF・ON時に初期化されてしまいますのでご注意ください。なお、[&W]がついているコマンドについては、設定後に「AT&W↵」と入力することにより設定を保存できます。このとき、[&W]がついている他の設定値も同時に保存されます。これらの値は、電源OFF・ON後であっても、「ATZ↵」と入力することにより、設定値を復元することができます。

ATコマンド一覧

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
A/ [M]	直前に実行したコマンドを再実行します。またキャリッジリターンは不要です。	―	A/ OK
AT%V [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	―	AT%V Ver1.00 OK
AT&C*n* [M] [&F][&W]	DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。	*n*=0：CDは常にON *n*=1：CDは相手モデムのキャリアに応じて変化します。（初期値）	AT&C1 OK
AT&D*n* [M] [&F][&W]	DTEから受け取る回路ER信号がオン／オフ遷移したときの動作を選択します。	*n*=0：ERの状態を無視します。（常にONとみなします。） *n*=1：ERがONからOFFに変化すると、オンラインコマンド状態になります。 *n*=2：ERがONからOFFに変化すると、オフラインコマンド状態になります。（初期値）	AT&D1 OK
AT&E*n* [M] [&F][&W]	接続時の速度表示の仕様を選択します。	*n*=0：無線区間通信速度を表示します。 *n*=1：DTEシリアル通信速度を表示します。（初期値）	AT&E0 OK
AT&F*n* [AT][M]	すべてのレジスタを工場出荷時の設定値に戻します。 通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	*n*=0のみ指定可能です。（省略可）	―
AT&S*n* [M] [&F][&W]	DTEへ出力するデータセットレディ信号の制御を設定します。	*n*=0：DRは常にON（初期値） *n*=1：DRは回線接続時（通信呼確立時）にONとなります。	AT&S0 OK
AT&W*n* [M]	現在の設定値を記憶します。	*n*=0のみ指定可能です。（省略可）	―
AT*DANTE [AT][M]	アンテナの本数を表示します。（0～3）	=0：FOMA端末のアンテナが圏外 =1：FOMA端末のアンテナが1本 =2：FOMA端末のアンテナが2本 =3：FOMA端末のアンテナが3本	AT*DANTE *DANTE:3 OK AT*DANTE=? *DANTE:(0-3) OK
AT*DGANSM=*n* [M]	パケット着信呼に対する着信拒否／許可設定のモードを設定します。 本コマンドによる設定は、設定コマンド入力後のパケット通信着信呼に対し有効となります。	*n*=0：着信拒否設定および着信許可設定を無効にします。（初期値） *n*=1：着信拒否設定（AT*DGARL）を有効にします。 *n*=2：着信許可設定（AT*DGAPL）を有効にします。 AT*DGANSM?：現在の設定を表示します。	AT*DGANSM=0 OK AT*DGANSM? *DGANSM:0 OK
AT*DGAPL=*n* [,cid] [M]	パケット着信呼に対して着信許可を行うAPNを設定します。 APNの設定は、AT+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストに追加します。 *n*=1：<cid>で定義されたAPNを着信許可リストから削除します。 <cid>が省略された場合には、すべてのcidに適用します。 AT*DGAPL?：着信許可リストを表示します。	AT*DGAPL=0,1 OK AT*DGAPL? *DGAPL:1 OK AT*DGAPL=1 OK AT*DGAPL? OK
AT*DGARL=*n* [,cid] [M]	パケット着信呼に対して着信拒否を行うAPNを設定します。APN設定は、+CGDCONTで定義された<cid>パラメータを用います。	*n*=0：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストに追加します。 *n*=1：<cid>で定義されたAPNを着信拒否リストから削除します。 cidが省略された場合には、すべてのcidに適用します。 AT*DGARL?：着信拒否リストを表示します。	AT*DGARL=0,1 OK AT*DGARL? *DGARL:1 OK AT*DGARL=1 OK AT*DGARL? OK

次ページにつづく

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT＊DGPIR=*n* [M]	本コマンドの設定は、発信時、着信時に有効となります。 ダイヤルアップネットワークでの設定でも、接続先の番号に186（通知）／184（非通知）を付けることができます。（P.462参照）	*n*=0：APNをそのまま使用します。（初期値） *n*=1：APNに"184"を付加して使用します。（常に非通知） *n*=2：APNに"186"を付加して使用します。（常に通知） AT＊DGPIR?：現在の設定を表示します。	AT＊DGPIR=0 OK AT＊DGPIR? ＊DGPIR:0 OK
AT＊DRPW [AT][M]	受信電力指標を表示します。（0：最小値～75：最大値）	―	AT＊DRPW ＊DRPW:0 OK
+++ [M]	オンライン状態のとき、エスケープシーケンスが実行されると回線を切断することなくオンラインコマンド状態に移行します。	―	―
AT+CEER [M]	直前の呼の切断理由を表示します。	<report> 切断理由一覧（P.478参照）	AT+CEER +CEER:36 OK
AT+CGDCONT [M]	パケット発信時の接続先（APN）を設定します。	P.478参照。	P.478参照。
AT+CGEQMIN [M]	PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。	AT+CGEQMIN=［パラメータ］ P.478参照。 AT+CGEQMIN=? 設定可能な値のリストを表示します。 AT+CGEQMIN? 現在の設定を表示します。	P.478参照。
AT+CGEQREQ [M]	PPPパケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。	AT+CGEQREQ=［パラメータ］ P.478参照。 AT+CGEQREQ=? 設定可能な値のリストを表示します。 AT+CGEQREQ? 現在の設定を表示します。	P.478参照。
AT+CGMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	―	AT+CGMR 1234512345123456 OK
AT+CGREG=*n* [M] [&F][&W]	ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。 応答される通知により圏内／圏外を表示します。	*n*=0：通知なし。（初期値） *n*=1：通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知します。 （問い合わせ） AT+CGREG? +CGREG：<n>,<stat> *n*：設定値 stat： 0：パケット圏外 1：パケット圏内 4：不明 5：パケット圏内（ローミング中）	AT+CGREG=1 OK （通知ありに設定） AT+CGREG? +CGREG:1,0 OK （圏外を意味している） （圏外から圏内に移動した場合） +CGREG：1
AT+CGSN [M]	FOMA端末の製造番号を表示します。	―	AT+CGSN 123456789012345 OK
AT+CLIP=*n* [AT][M] [&F][&W]	64Kデータ通信／テレビ電話着信時に相手の発信番号をパソコンに表示することができます。	*n*=0：通知しません。（初期値） *n*=1：通知します。 リザルト：+CLIP：<*n*>,<*m*> *m*=0：発信時の相手に番号を通知しないNW設定 *m*=1：発信時の相手に番号を通知するNW設定 *m*=2：不明	AT+CLIP=0 OK AT+CLIP? +CLIP:0,1 OK

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+CLIR=*n* [M]	64Kデータ通信／テレビ電話通信を発信するとき、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。	*n*=0：CLIRサービスの契約に従い、発番通知されます。（されません）。 *n*=1：通話相手に番号発信しません。 *n*=2：通話相手に番号発信します。（初期値） リザルト：+CLIR：<n>,<*m*> *m*=0：CLIRは起動していません。（常時通知） *m*=1：CLIRは起動しています。（常時非通知） *m*=2：不明 *m*=3：CLIRテンポラリーモード（非通知デフォルト） *m*=4：CLIRテンポラリーモード（通知デフォルト） ※#31#、＊31#が付加されていない場合はCLIRの設定が優先されます。	AT+CLIR=0 OK AT+CLIR? +CLIR:0,1 OK AT+CLIR=? +CLIR:(0-2) OK
AT+CMEE=*n* [M] [&F][&W]	FOMA端末のエラーレポートの有無の設定を行います。	*n*=0：通常のERRORリザルトを用います。（初期値） *n*=1：+CME ERROR: <err>リザルトコードを使用し、<err>は数値を用います。 *n*=2：+CME ERROR: <err>リザルトコードを使用し、<err>は文字を用います。 AT+CMEE?：現在の設定を表示します。 右記はFOMA端末や接続に異常がある場合のコマンドの実行例です。 +CME ERRORリザルトコードは下記のとおりです。 1：no connection to phone 10：SIM not inserted 15：SIM wrong 16：incorrect password 100：unknown	AT+CMEE=0 OK AT+CNUM ERROR AT+CMEE=1 OK AT+CNUM +CME ERROR：10 AT+CMEE=2 OK AT+CNUM +CME ERROR：SIM not inserted
AT+CNUM [AT][M]	FOMA端末の自局電話番号を表示します。	number　：電話番号 type　　：129もしくは145 129：国際アクセスコード＋を含まない 145：国際アクセスコード＋を含む	AT+CNUM +CNUM:,"+819012345678",145 OK
AT+CR=*n* [M] [&F][&W]	回線接続時にCONNECTのリザルトコードを表示する前に、ベアラサービス種別を表示します。	*n*=0：表示しません。（初期値） *n*=1：表示します。 <serv>：パケット通信を意味する"GPRS"のみ表示します。 （回線種別により"SYNC"、"AV32K"、"AV64K"を表示します。） AT+CR?：現在の設定値を表示します。	AT+CR=1 OK ATD＊99＊＊＊1# +CR：GPRS CONNECT
AT+CRC=*n* [AT][M] [&F][&W]	着信時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを設定します。	*n*=0：＋CRINGを使用しません。（初期値） *n*=1：＋CRING.<type>を使用します。 AT+CRC?で現在の設定を表示します。 +CRINGの書式は次のとおりです。 +CRING：<type> PPPパケット呼着信時 +CRING：GPRS "PPP",,,<APN>	AT+CRC=0 OK AT+CRC? +CRC：0 OK
AT+CREG=*n* [AT][M] [&F][&W]	圏内・圏外情報の表示に関するリザルト表示の有無を設定します。 （OSによっては設定できない場合があります。）	*n*=0：通知なし。（初期値） *n*=1：通知あり。圏内・圏外が切り替わったときに通知します。 （問い合わせ） AT+CREG? +CREG：<n>,<stat> *n*：設定値 stat： 0：音声圏外 1：音声圏内 4：不明 5：音声圏内（ローミング中）	AT+CREG=1 OK （通知ありに設定） AT+CREG? +CREG：1,0 OK （圏外を意味している） （圏外から圏内に移動した場合） +CREG：1
AT+GMI [M]	メーカ名（Panasonic）を表示します。	ー	AT+GMI Panasonic OK
AT+GMM [M]	FOMA端末の製品名（FOMA P700i）を表示します。	ー	AT+GMM FOMA P700i OK

次ページにつづく

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
AT+GMR [M]	FOMA端末のバージョンを表示します。	ー	AT+GMR Ver1.00 OK
AT+IFC=*n*,*m* [M] [&F][&W]	フロー制御方式の選択を行います。	*n*　：DCE by DTE *m*　：DTE by DCE 0：フロー制御なし 1：XON／XOFFフロー制御 2：RS／CS(RTS/CTS)フロー制御　初期値はn,m=2.2 AT+IFC?で設定値を問い合わせます。	AT+IFC=2,2 OK
AT+WS46=*n* [M] [&F][&W]	FOMA端末の無線通信網を選択します。	*n*=22：W-CDMA（Wideband CDMA）のみ指定可能です。（初期値）	AT+WS46=22 OK
ATA [M]	FOMA端末が着信したモードにしたがって着信処理を行います。	ー	RING ATA CONNECT
ATD [M]	FOMA端末に対してパラメータ、ダイヤルパラメータの指定にしたがって自動発信処理を行います。	<cid>：1〜10。+CGDCONTで設定したAPNを表します。cid1に発信する場合、「ATD＊99＊＊＊#」と省略することができます。	ATD＊99＊＊＊1# CONNECT
ATE*n* [M] [&F][&W]	コマンドモードにおいてDTEに対するエコーバックの有無を指定します。	*n*=0：エコーバックなし *n*=1：エコーバックあり（初期値）	ATE1 OK
ATH*n* [M]	FOMA端末に対してオンフック動作を行います。	*n*=0：回線を切断します。（省略可）	（パケット通信中） +++ ATH NO CARRIER
ATI*n* [AT][M]	認識コードを表示します。	*n*=0：「NTT DoCoMo」を表示します。 *n*=1：製品名を表示します。（+GMMと同じ） *n*=2：PPPパケット機能のバージョンを表示します。（+GMRと同じ）	ATI0 NTT DoCoMo OK ATI1 FOMA P700i OK
ATO*n* [M]	通信中にオンラインコマンドモードから、オンラインデータモードに戻ります。	*n*=0：オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに戻します。（省略可）	ATO CONNECT
ATQ*n* [M] [&F][&W]	DTEへのリザルトコードを表示するかどうか設定します。	*n*=0：リザルトコードを表示します。（初期値） *n*=1：リザルトコードを表示しません。	ATQ0 OK ATQ1 （このとき、OKは応答されません。）
ATS0=*n* [M] [&F][&W]	FOMA端末が自動着信するまでの呼び出し回数を設定します。	*n*=0：自動受信しません。（初期値） *n*=1〜255：指定したリング回数で自動受信します。 （*n*≧10のとき、パケット（PPP）着信の場合は、自動受信せず約30秒で切断されます。） ATS0?で設定値を問い合わせます。	ATS0=0 OK ATS0? 000 OK
ATS2=*n* [M] [&F]	エスケープキャラクタの設定を行います。	*n*=43：初期値 *n*=127：エスケープ処理は無効。 ATS2?で設定値を問い合わせます。	ATS2=43 OK ATS2? 043 OK
ATS3=*n* [M] [&F]	キャリッジリターン（CR）キャラクタの設定を行います。	*n*=13：初期値（n=13のみ指定可） ATS3?で設定値を問い合わせます。	ATS3=13 OK ATS3? 013 OK
ATS4=*n* [M] [&F]	ラインフィード（LF）キャラクタの設定を行います。	*n*=10：初期値（n=10のみ指定可） ATS4?で設定値を問い合わせます。	ATS4=10 OK ATS4? 010 OK
ATS5=*n* [M] [&F]	バックスペース（BS）キャラクタの設定を行います。	*n*=8：初期値（n=8のみ指定可） ATS5?で設定値を問い合わせます。	ATS5=8 OK ATS5? 008 OK

ATコマンド	概　要	パラメータ／説明	コマンド実行例
ATS7=*n* [M] [&F][&W]	接続完了までの待ち時間設定。発信時、設定時間以内に接続できなければ、回線を切断します。	*n*=1～120（初期値は60）（単位：秒） 121～255の指定は120とみなします。 ATS7?で設定値を問い合わせます。	ATS7=60 OK ATS7? 060 OK
ATS30=*n* [M][&F]	不活動タイマ（分）を設定します。ユーザデータの送受信がないと、設定した時間以上で切断します。本コマンドの設定は、64Kデータ通信に限ります。設定が0の場合、不活動タイマOFFとなります。	*n*=0～255（初期値は0）（単位：分）	ATS30=0 OK
ATS103=*n* [M][&F]	着サブアドレスの区切りのキャラクタを選択します。	*n*=0：＊（アスタリスク） *n*=1：／（スラッシュ）（初期値） *n*=2：＼またはバックスラッシュ	ATS103=0 OK
ATS104=*n* [M][&F]	発サブアドレスの区切りのキャラクタを選択します。	*n*=0：＃（シャープ） *n*=1：％（パーセント）（初期値） *n*=2：＆（アンド）	ATS104=0 OK
ATV*n* [M] [&F][&W]	すべてのリザルトコードを数字表記または英文字表記に設定します。	*n*=0：リザルトコードを数値で返送します。 *n*=1：リザルトコードを文字で返送します。（初期値）	ATV1 OK
ATX*n* [M] [&F][&W]	接続時のCONNECT表示に速度表示の有無を設定します。 また、ビジートーン、ダイヤルトーンの検出を行います。	*n*=0：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示なし。 *n*=1：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出なし、速度表示あり。 *n*=2：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出なし、速度表示あり。 *n*=3：ダイヤルトーン検出なし、ビジートーン検出あり、速度表示あり。 *n*=4：ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出あり、速度表示あり。（初期値）	ATX1 OK
ATZ [M]	設定を不揮発メモリの内容にリセットします。通信中に本コマンドが入力された場合、回線切断処理を行います。	－	（オンライン時） ATZ NO CARRIER （オフライン時） ATZ OK
AT＼S [M]	現在設定されている各コマンド、Sレジスタの内容を表示します。	－	AT＼S E1 Q0 V1 X4 &C1 &D2 &S0 ＼V0 S000=000 S002=043 S003=013 S004=010 S005=008 S006=005 S007=060 S008=003 S010=001 S030=000 S103=000 S104=000 OK
AT＼V*n* [M] [&F][&W]	接続時の応答コード仕様の選択を行います。	*n*=0：拡張リザルトコードを使用しません。（初期値） *n*=1：拡張リザルトコードを使用します。	AT＼V0 OK

※以下のコマンドは、エラーにはなりませんがコマンドの動作はしません。

・AT（ATのみの入力）
・ATP（パルス設定）
・ATS8（カンマダイヤルによるポーズ時間設定）
・ATT（トーン設定）
・ATS6（ダイヤルするまでのポーズ時間設定）
・ATS10（自動切断遅延時間設定）

ATコマンドの補足説明

●コマンド名：　+CGDCONT　　　　　[M]

・概要
パケット発信時の接続先（APN）の設定を行います。

・書式
+CGDCONT=[<cid>[,"PPP"[,"<APN>"]]]

・パラメータ説明
パケット発信時の接続先（APN）を設定します。設定例は以下のコマンド実行例を参照してください。
<cid>※　：1～10
<APN>※：任意
※<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。
FOMA端末では1～10が登録できます。<cid>=1にはmopera.ne.jpが初期値として登録されていますが、書き換えは可能です。
<APN>は、接続先を示す接続先ごとの任意の文字列です。

・パラメータを省略した場合の動作
+CGDCONT=　　　　：すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGDCONT=<cid>：指定された<cid>を初期値に設定します。
+CGDCONT=?　　　：設定可能な値のリスト値を表示します。
+CGDCONT?　　　：現在の設定を表示します。

・コマンド実行例
AT+CGDCONT=3,"PPP","abc"
OK
※abcというAPN名を登録する場合のコマンド（cidが3の場合）
※〈cid〉=1については初期値を持ちますが、書き換えは可能です。本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名：　+CGEQMIN=[パラメータ]　[M]

・概要
PPPパケット通信確立時にネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。
設定パターンは、以下のコマンド実行例に記載されている4パターンが設定できます。

・書式
+CGEQMIN=[<cid>[,,<Maximum bitrate UL>[,<Maximum bitrate DL>]]]

・パラメータ説明
<cid>※　　　　　　　　：1～10
<Maximum bitrate UL>※：なし（初期値）または64
<Maximum bitrate DL>※：なし（初期値）または384
※<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。FOMA端末では1～10が登録できます。
<Maximum bitrate UL>および<Maximum bitrate DL>は、FOMA端末と基地局間の上りおよび下り最低通信速度[kbps]の設定です。なし（初期値）の場合はすべての速度を許容しますが、64および384を設定した場合はこれらの値以外での速度の接続は許容しないため、パケット通信がつながらない場合がありますのでご注意ください。

・パラメータを省略した場合の動作
+CGEQMIN=　　　　：すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGEQMIN=<cid>：指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例
以下の4パターンのみ設定できます。((1)の設定が各cidに初期値として設定されています。)
(1)上り/下りすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが2の場合）
AT+CGEQMIN=2
OK
(2)上り64kbps/下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが3の場合）
AT+CGEQMIN=3,,64,384
OK
(3)上り64kbps/下りはすべての速度を許容する場合のコマンド（cidが4の場合）
AT+CGEQMIN=4,,64
OK
(4)上りすべての速度/下り384kbpsの速度のみ許容する場合のコマンド（cidが5の場合）
AT+CGEQMIN=5,,,384
OK
※本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名：　+CGEQREQ=[パラメータ]　[M]

・概要
PPPパケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。
設定は以下のコマンド実行例に記載されている1パターンのみで初期値としても設定されています。

・書式
+CGEQREQ=[<cid>]

・パラメータ説明
<cid>※　：1～10
※<cid>は、FOMA端末内に登録するパケット通信での接続先（APN）を管理する番号です。
FOMA端末では1～10が登録できます。

・パラメータを省略した場合の動作
+CGEQREQ=　　　　：すべての<cid>に対し初期値を設定します。
+CGEQREQ=<cid>：指定された<cid>を初期値に設定します。

・コマンド実行例
以下の1パターンのみ設定できます。
（各cidに初期値として設定されています。）
(1)上り64kbps/下り384kbpsの速度で接続を要求する場合のコマンド（cidが3の場合）
AT+CGEQREQ=3
OK
※本コマンドは設定コマンドですが、&Wにより書き込まれる不揮発メモリには記憶されません。&F、Zによるリセットも行われません。

●コマンド名：　+CLIP

・概要
"AT+CLIP=1"の場合のリザルトが下記の書式で表示されます。
+CLIP：<number><type>

・コマンド実行例
AT+CLIP=1
OK
RING
+CLIP："09012345678",49

切断理由一覧

■64Kデータ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手が呼び出し中のため通信ができません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない伝達能力を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信したか、もしくは着信を受けました。

■パケット通信

値	理　由
27	APNが存在しないか、もしくは正しくありません。
30	ネットワークより切断されました。
33	要求したサービスオプションは申し込まれていません。
36	正常に切断されました。

リザルトコード

■リザルトコード一覧

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました
1	CONNECT	相手と接続しました
2	RING	着信が来ています
3	NO CARRIER	回線が切断されました
4	ERROR	コマンドを受け付けることができません
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません
7	BUSY	話中音の検出中です
8	NO ANSWER	接続完了 タイムアウト
100	RESTRICTION	ネットワークが規制中です
101	DELAYED	リダイヤル規制時間内

■拡張リザルトコード

&E0のとき

FOMA端末－基地局間の接続速度を表示します。

数字表示	文字表示	接続速度
121	CONNECT 32000	32000bps
122	CONNECT 64000	64000bps
125	CONNECT 384000	384000bps

&E1のとき

数字表示	文字表示	接続速度
5	CONNECT 1200	1200bps
10	CONNECT 2400	2400bps
11	CONNECT 4800	4800bps
13	CONNECT 7200	7200bps
12	CONNECT 9600	9600bps
15	CONNECT 14400	14400bps
16	CONNECT 19200	19200bps
17	CONNECT 38400	38400bps
18	CONNECT 57600	57600bps
19	CONNECT 115200	115200bps
20	CONNECT 230400	230400bps
21	CONNECT 460800	460800bps

お知らせ

●ATV*n*コマンド（P.477参照）が*n*=1に設定されている場合には文字表示形式（初期値）、*n*=0に設定されている場合には数字表示形式でリザルトコードが表示されます。

●従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA端末－PC間はFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続されているため、実際の接続速度と異なります。

●「RESTRICTION」（数字表示：100）が表示された場合には、通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続しなおしてください。

■通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64Kデータ通信で接続
2	AV32K	テレビ電話32Kで接続
3	AV64K	テレビ電話64Kで接続
5	PACKET	PACKETで接続

■リザルトコード表示例

●ATX0が設定されている場合

AT\Vコマンド（P.477参照）の設定にかかわらず、接続完了の際にCONNECTのみの表示となります。

文字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT

数字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
1

●ATX1が設定されている場合※

・ATX1、AT\V0が設定されている場合（初期値）

接続完了のときに、CONNECT<FOMA端末－PC間の速度>の書式で表示します。

文字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800

数字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
1 21

・ATX1、AT\V1が設定されている場合※

接続完了のときに、以下の書式で表示します。

CONNECT＜FOMA端末－PC間の速度＞PACKET＜接続先APN＞/＜上り方向（FOMA端末→無線基地局間）の最高速度＞/＜下り方向（FOMA端末←無線基地局間）の最高速度＞

文字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
CONNECT 460800 PACKET
mopera.ne.jp /64/384
（mopera.ne.jpに、上り最大64kbps、下り最大384kbpsで接続したことを表します。）

数字表示例：ATD＊99＊＊＊1#
1215

※ATX1、AT\V1を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しく行えない場合があります。
AT\V0だけでのご利用をおすすめします。

